

活用編

活用編 もくじ

活用編 もくじ.....	1
はじめに	6

1章 使いはじめる前に..... 13

1 Windows 8.1 の操作について.....	14
1 スタート画面とデスクトップ画面の切り替えについて.....	15
2 チャームの操作について.....	17
3 アプリケーション一覧の表示について.....	19
4 Windows 8.1 でわからない操作があったとき.....	19
2 「東芝サービスステーション」について.....	20
3 Windows セットアップが終了したら	22
4 リカバリーメディアを作る	23
5 前のパソコンのデータを移行する - PC 引越ナビ -	26

2章 本製品の基本操作を覚えよう..... 31

1 電源を入れる.....	32
2 使い終わったら	34
1 電源を切る.....	35
2 スリープ.....	38
3 休止状態.....	39
4 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する.....	39
3 タッチ操作する	40
1 指でタッチして操作する.....	40
2 タッチキーボードについて	43
4 内蔵フラッシュメモリ	45

5	画面を調整する – ディスプレー	46
1	画面の明るさを調整する	46
2	画面の向きを設定する	46
6	サウンド	48
1	スピーカーの音量を調整する	48
7	microSD メモリカードを使う – SD カードスロット	50
1	microSD メモリカードを使う前に	50
2	カードのセットと取り出し	51
8	Web カメラを使う	54
1	Web カメラのアプリケーションについて	56

3章 ネットワークの世界へ 57

1	ネットワークで広がる世界	58
1	LAN 接続はこんなに便利	58
2	無線 LAN を使う	59
1	無線 LAN 機能を ON にする	59
2	無線 LAN を設定する	60

4章 周辺機器を使って機能を広げよう 63

1	周辺機器を使う前に	64
2	USB 対応機器を使う	65
3	テレビや外部ディスプレイを接続する	68
1	HDMI ケーブルで接続する / 取りはずす	68
2	HDMI ケーブルで接続時に表示を切り替える	71
4	ヘッドセットやヘッドホンを使う	73
1	ヘッドセットを使う	73
2	ヘッドホンを使う	75
5	Bluetooth 機能を使う	76

5章 バッテリー駆動で使う 79

- 1** バッテリーについて 80
 - 1** バッテリー充電量を確認する 81
 - 2** バッテリーを充電する 82

6章 アプリケーション 85

- 1** ウイルスバスターを使う 86
 - 1** ウイルスバスターでウイルスをチェックする 88
 - 2** ウイルスバスターのいろいろな機能 89
- 2** i-フィルター6.0を使う 90
- 3** インターネット上のサービスでバックアップする
-バックアップナビ クラウド- 92
- 4** Skypeで通話する 93
 - 1** 「Skype」を起動する 93
 - 2** ビデオ通話の内容を録画する - Corel ScreenCap - 94
- 5** デジタルカメラの写真を楽しむ 96
 - 1** 自動的に写真を整理する - 思い出フォトビューアー - 96
- 6** メディアサーバーの映像を本製品で楽しむ 98
 - 1** TVコネクトスイートを使う 98
- 7** 本製品の画面をテレビ/外部ディスプレイに
ワイヤレスで表示する 100
- 8** パソコンの画面を本製品の画面に表示する
-東芝スクリーンミラーリング for Windows PC/タブレット- ... 102
- 9** 撮影したホワイトボードの画像を補正する
- TruCapture - 103

7章 システム環境を設定する 105

- 1** パスワードセキュリティ 106
 - 1** Windowsパスワード 107
- 2** 起動ドライブの変更 108
- 3** BIOS セットアップを使う 109
 - 1** 起動と終了/BIOS セットアップの操作 110

8章 本製品の動作がおかしいときは..... 113

- 1** トラブルを解消するまでの流れ 114
 - 1** トラブルの原因をつき止めよう 114
 - 2** トラブル対処法 115
- 2** 「詳細オプション」で調べる 117
- 3** Q&A 集 118
 - 1** 画面/表示 118
 - 2** システム/内蔵フラッシュメモリ 121
 - 3** タッチパネル 121
 - 4** その他 122

- 1 お問い合わせ先 – OS／アプリケーション– 124**

 - 1** OSのお問い合わせ先 124
 - 2** アプリケーションのお問い合わせ先 125

- 2 デイリーケアとアフターケア 128**
- 3 お客様登録の手続き 135**

 - 1** 東芝ID (TID) お客様登録のおすすめ 135

- 4 捨てるとき／人に譲るとき 136**
- 5 ご使用にあたってのお願い 138**
- 6 記録メディアについて 144**

 - 1** microSD メモリカードを使うにあたって 144
 - 2** 記録メディアの廃棄・譲渡について 145

- 7 メディア／内蔵フラッシュメモリへの書き出し 146**
- 8 技術基準適合について 147**
- 9 無線LAN／Bluetoothについて 150**

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。

必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

 危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	参照先を示します。 <ul style="list-style-type: none">● 本書内への参照の場合…「 」● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『 』

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 軽傷とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows または Windows 8.1

Windows 8.1 with Bing または Windows 8.1 Pro を示します。

Office 搭載モデル

Microsoft Office Personal 2013、または Microsoft Office Home and Business 2013 をプレインストールしているモデルを示します。

Bluetooth 機能搭載モデル

Bluetooth 機能を搭載しているモデルを示します。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「****モデルの場合」や「****シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体の内蔵フラッシュメモリや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows及びWindowsロゴ、Skype及びSkypeロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。
その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Microsoft® PowerPoint 2013 楽しもう フォトウィザードは、Microsoft .NET Framework を使用して構築されています。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテルは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- Blu-ray Disc™（ブルーレイディスク）、Blu-ray™（ブルーレイ）及び関連ロゴはブルーレイディスク アソシエーションの商標です。
- microSDロゴは商標です。
- microSDHCロゴは商標です。
- microSDXCロゴは商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- Corel、Corel ロゴ、VideoStudio、およびScreenCapは、カナダ米、およびその他の国における Corel Corporation とその子会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- WiMAXは、WiMAX フォーラムの商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。

これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するように、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサおよび32ビットOSが搭載されております。64ビットのデバイスドライバーやアプリケーションは動作しません。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作権および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [はじめに] の [ リリース情報] をタップする

8 お願い

- 本体の内蔵フラッシュメモリにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 標準のシステムツール以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体の内蔵フラッシュメモリにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- お使いの環境によっては、スムーズに再生できない動画があります。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
ウイルスチェックが全く行われないう状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 ▶ 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 [ユーザーアカウント制御] 画面について

操作の途中で [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 環境依存文字について

- ユーザーアカウント名やフォルダー名に環境依存文字が含まれていると、ファイルの読み込みや保存などが正常に動作しないことがあります。
- コンピューター名に環境依存文字が含まれていると、アプリケーションが起動しないなど、正常に動作しないことがあります。
- ファイル名やファイル内の文字列に環境依存文字が含まれていると、ファイル名が「？」などのように正しく表示されず、正常に動作しないことがあります。
- アプリケーション上でファイルの編集集中に入力した文字列に環境依存文字が含まれていると、作成したファイル上で正しく表示されないことがあります。

このような場合には、環境依存文字を含まない文字列に変更してください。

microSDメモリーカードなどの記録メディアにデータを書き込むときは、環境依存文字が含まれていないことをあらかじめ確認してから作業を行ってください。

11 「Office」のライセンス認証について

* Office搭載モデルのみ

Office搭載モデルの場合、「Office」を使用するには、Windowsのセットアップ後にライセンス認証が必要です。

① スタート画面の [Microsoft Office] をタップする

以降は、画面の指示に従ってください。

ライセンス認証にはプロダクトキーが必要です。

プロダクトキーは、付属の「Office」のパッケージを確認してください。

12 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

□ 映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。

エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。

その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

13 H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (<http://www.mpegla.com>) より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1 AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE <http://www.mpegla.com>

1 章

■ 使いはじめる前に

Windows セットアップ後に行うことや、リカバリーメディアの作成方法、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1	Windows 8.1 の操作について	14
2	「東芝サービスステーション」について	20
3	Windows セットアップが終了したら	22
4	リカバリーメディアを作る	23
5	前のパソコンのデータを移行する -PC引越ナビ-	26

1

Windows 8.1 の操作について

1章

使いはじめる前に

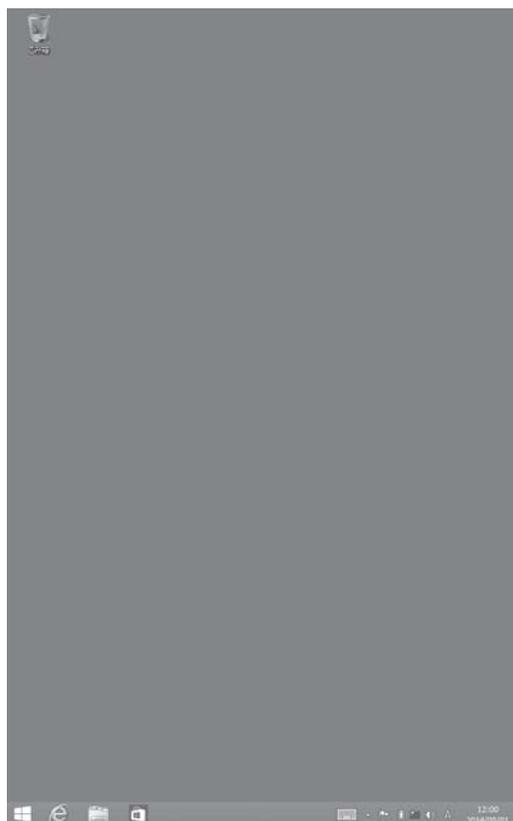
Windows 8.1 の画面構成やメニューの位置は、Windows 7などの従来のWindowsとは異なります。従来のWindowsとWindows 8.1で大きく異なる点は、メイン画面が2種類（「スタート画面」と「デスクトップ画面」）あることです。

<スタート画面>



(表示例)

<デスクトップ画面>



(表示例)

* 画面を縦置きにした場合の表示例です。

1 スタート画面とデスクトップ画面の切り替えについて

スタート画面とデスクトップ画面の切り替えかたについて説明します。

□ スタート画面からデスクトップ画面に切り替える

1 [デスクトップ] をタップする

[デスクトップ] がない場合は、画面を左右にスクロールして探してください。画面を左右に指でスライドし①、[デスクトップ] をタップしてください②。

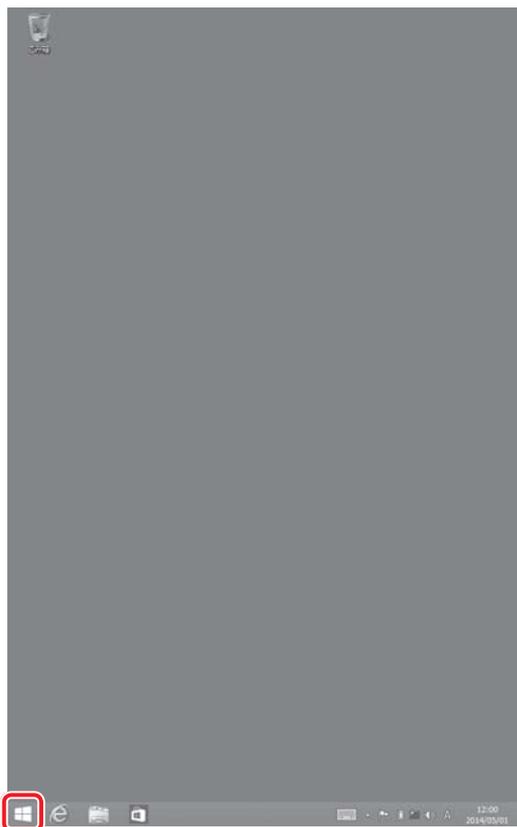
* [デスクトップ] アイコン (タイル) は、デスクトップ画面の壁紙によって表示されるアイコンが異なります。また、モデルや使用状況により、画面上での位置が異なる場合があります。



デスクトップ画面が表示されます。

□ デスクトップ画面からスタート画面に切り替える

1 [スタート] アイコン () をタップする



(表示例)

スタート画面が表示されます。

1章

使いはじめる前に

メモ

- 本体のWindows ボタン () を押しても、スタート画面とデスクトップ画面を切り替えることができます。

参照 Windows ボタン『取扱説明書 1章 2 - 1 前面図』

- Windows を起動して最初に表示される画面*¹を、スタート画面またはデスクトップ画面のいずれかに変更できます。
* 1 Windows パスワードを設定している場合や、ほかのユーザーアカウントを登録している場合は、先に確認の画面が表示されます。

次の設定を行ってください。

- ① デスクトップ画面でタスクバーを長押しする
メニューが表示されます。
- ② [プロパティ] をタップする
- ③ [ナビゲーション] タブをタップし、[サインイン時または画面上のすべてのアプリを終了したときに、スタート画面ではなくデスクトップに移動する] をチェックする、またはチェックをはずす
チェックすると、デスクトップ画面が最初に表示されます。
チェックをはずすと、スタート画面が最初に表示されます。
- ④ [OK] ボタンをタップする

2 チャームの操作について

「チャーム」と呼ばれるメニューバーの操作について説明します。

1 画面の右端から左に向かってスワイプする



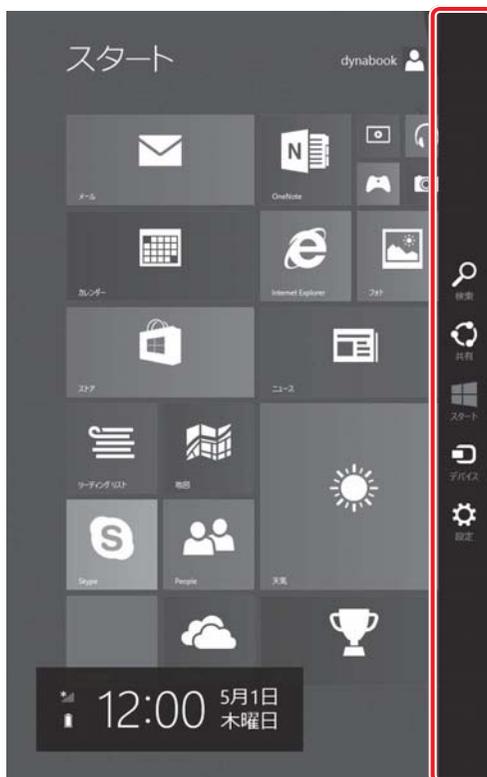
(表示例)

5つのメニューアイコンが表示されます。

2 目的の項目を選択する

1章

使いはじめる前に



(表示例)

 検索	本製品内のアプリケーション、ファイル、機能などを検索します。インターネット上の情報検索もできます。
 共有	共有するためのツールが用意されています。
 スタート	画面を切り替えます。
 デバイス	周辺機器を使用するためのメニューです。
 設定	設定メニューです。電源を切るためのメニューもここにありません。

3 アプリケーション一覧の表示について

アプリケーション一覧の表示方法について説明します。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
[アプリ] 画面が表示されます。

4 Windows 8.1 でわからない操作があったとき

Windows 8.1 の使い方について調べる方法には、次のようなものがあります。

- スタート画面やチャームの [検索] (🔍) を使って調べる
- スタート画面の「ヘルプ+使い方」(🔗) から調べる
- 「ヘルプとサポート」(❓) から調べる
 - ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
 - ② [Windows システムツール] の [❓ ヘルプとサポート] をタップする

■ Windows について

Windows の最新情報は次のホームページから確認できます。

URL : <http://www.microsoft.com/>

■ スタート画面やチャームの [検索] を使って調べる

スタート画面またはチャームの [検索] を使うと、入力した項目について、本製品に該当する名称の機能がある場合、代表的な項目が表示されます。さらに [🔍 (検索)] ボタンをタップすると、検索した名称に該当する本製品の機能の一覧と、インターネットに接続している場合、名称に関するインターネット上の情報が表示されます。

検索後、目的の項目を選択してください。

ここでは「アカウント」を検索する場合を例に説明します。

「アカウント」と入力すると、「アカウント」を名称に含む代表的な機能が表示されます。

[🔍 (検索)] ボタンをタップすると、本製品の機能の一覧と、インターネットからの検索結果が表示されます。

「東芝サービスステーション」は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。以降の説明をお読みのうえ、「東芝サービスステーション」を使用して、本製品を最新の状態に保つことを強くおすすめします。



メモ

- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。「あなたのdynabook.com」*¹や「dynabook.com」の「よくある質問 FAQ」やウイルス・セキュリティ情報と「Microsoft Update」などをあわせてご利用ください。

* 1 「あなたのdynabook.com」対象モデルのみ

1 インストールと設定について

* 購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合があります。

「東芝サービスステーション」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [TOSHIBA] に [Service Station] があるかどうかを確認する

「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールと設定を行ってください。

インストール方法

「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [ アプリケーションの再インストール] をタップする
- 3 [セットアップ画面へ] をタップする
- 4 [ユーティリティ] タブをタップする
- 5 画面左側の [TOSHIBA Service Station] または [東芝サービスステーション] をタップし、[「TOSHIBA Service Station」のセットアップ] または [「東芝サービスステーション」のセットアップ] をタップする

6 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

「XXXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをタップしてください。

設定方法

「東芝サービスステーション」がインストールされていない場合は、インストール後に次の手順で「東芝サービスステーション」を使用できるように設定してください。

このソフトウェアは本製品の識別情報などを当社のサーバーへ送信します。

使用できるように設定する前に、詳しい内容を説明した使用許諾書が表示されますので、よくお読みください。

1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする**2** [TOSHIBA] の [ Service Station] をタップする

「東芝サービスステーション」が起動します。

初めて起動したときは、本ソフトウェアに関する詳しい説明（使用許諾書）が表示されます。

3 内容を確認し、[同意する] ボタンをタップする

使用許諾書に同意すると、以降は、ソフトウェアのアップデートや当社からのお知らせを検出する機能が、本製品を起動すると自動的に動作します。

2 使用方法**■ソフトウェアのアップデートがある場合**

本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバーやBIOSにアップデートがあることを検知すると、メッセージ「X件の新しいソフトウェアのアップデート（更新）があります。」が表示されます。

メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

■本製品に対するお知らせがある場合

本製品に対する当社からのお知らせが準備されたことを検出すると、メッセージ「X件の新しいお知らせがあります。」が表示されます。

メッセージを確認し、画面の指示に従って操作してください。

手動で、ソフトウェアのアップデート、またはお知らせを確認したい場合は、次の操作を行ってください。

① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする

② [TOSHIBA] の [ Service Station] をタップする

「東芝サービスステーション」が起動します。

③ [すべてのアップデートを確認] をタップする

日付と時刻の確認

日付と時刻は、デスクトップ画面右下の [通知領域] などに表示されています。

正しく設定されているかどうか確認してください。

正しく設定されていない場合は、日付と時刻を設定し直してください。

参照▶ 日付と時刻の設定について「8章 **3** - **2** - Q 内蔵時計が合っていない」

Windows を最新の状態にする

「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

「Windows Update」については、スタート画面またはチャームの [検索] 欄に「Windows Update」と入力して検索してください。

参照▶ 「本章 **1** - **4**」 - スタート画面やチャームの [検索] を使って調べる」

リカバリーメディアの作成

リカバリーメディアを作成しておくことを強くおすすめします。

リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元（リカバリー）するためのものです。

参照▶ リカバリーメディアについて「本章 **4** リカバリーメディアを作る」

なお、リカバリーメディアを使って実際にリカバリーを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

参照▶ リカバリーについて『取扱説明書 2章 **6** 本製品を初期状態に戻す』

バックアップをとる

作成したファイルを誤って削除してしまったり、突然の本製品のトラブルによって保存したファイルが使えなくなってしまうことがあります。

このような場合に備えて、あらかじめファイルを microSD メモリカードなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

一度なくしたデータを復旧することはできません。

万が一のために、必ず定期的にバックアップをとりましょう。

4 リカバリーメディアを作る

本製品にトラブルが発生したときに、本製品を購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

参照 ▶ リカバリーの詳細『取扱説明書 2章 6 本製品を初期状態に戻す』

本製品の内蔵フラッシュメモリには、システムやアプリケーションを購入時の状態に戻すためのリカバリーツールが搭載されています。

しかし、トラブルの原因によっては肝心のリカバリーツールを起動できないおそれもあります。このような場合に備え、あらかじめリカバリーツールをUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

内蔵フラッシュメモリからリカバリーができない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーができます。

作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

メモ

- リカバリーメディアを作成しておらず、内蔵フラッシュメモリからもリカバリーが行えない場合は、修理が必要になることがあります。
東芝PCあんしんサポートに相談してください。

参照 ▶ 東芝PCあんしんサポート「付録 1 お問い合わせ先」

■ リカバリーを行うと

リカバリーをすると、内蔵フラッシュメモリ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

■ 準備するもの

- USBフラッシュメモリ
USBフラッシュメモリで、リカバリーメディアを作成します。
何もデータが書き込まれていないものを用意してください。
リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量は、リカバリーメディアを作成する手順の途中で画面に表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

参照 ▶ リカバリーメディアを作成する手順「本節 1 リカバリーメディアを作成する」

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- リカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

USBフラッシュメモリに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- リカバリーメディアの作成時はmicroUSBコネクタを使用するため、本製品に電源コードとACアダプターを接続できません。

バッテリー駆動で使用中にバッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがありますので、あらかじめバッテリーの充電を完了（フル充電）してください。

- ① 電源コードとACアダプターを接続し、バッテリーをフル充電の状態にする

参照▶ 詳細について「5章 1 - 2 バッテリーを充電する」

- ② 電源コードとACアダプターを取りはずす

- ③ 本製品のmicroUSBコネクタに、USBデバイスアンドチャージケーブル（東芝製オプション）、または市販のセルフパワーのUSBハブを接続する

セルフパワーのUSBハブとは、接続しているUSB対応機器にUSBハブのACアダプターから給電ができるタイプのものです。

USBハブのプラグがmicroBタイプではない場合、本製品のmicroUSBコネクタに直接接続することができません。

参照▶ 「4章 2 USB対応機器を使う」

参照▶ 『USBデバイスアンドチャージケーブルに付属の説明書』

- ④ USBデバイスアンドチャージケーブルまたはUSBハブにUSBフラッシュメモリを接続する

- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が動かないようにしてください。電源OFF／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。

- ・スクリーンセーバー
- ・ウイルスチェックソフト
- ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
- ・音楽や映像の再生アプリケーション
- ・LANなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。

- ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、本製品の操作を行わないでください。

- 本製品に衝撃や振動を与えないでください。

- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照▶ 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- 本製品から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 リカバリーメディアを作成する

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
- 3 「表示方法」の [カテゴリ] をタップし、[大きいアイコン] を選択する
- 4 [回復] をダブルタップする
- 5 [回復ドライブの作成] をタップする
[回復ドライブの作成] 画面が表示されます。
- 6 [回復パーティションをPCから回復ドライブにコピーします。] にチェックがついていることを確認して、[次へ] ボタンをタップする
[USBフラッシュドライブの接続] 画面が表示されます。
画面に表示される容量以上のUSBフラッシュメモリが必要になります。
- 7 USBフラッシュメモリをセットする
USBフラッシュメモリのセット方法については、「本節 - お願い リカバリーメディアの作成にあたって」を確認してください。
- 8 [次へ] ボタンをタップする
- 9 [作成] ボタンをタップする
USBフラッシュメモリの内容はすべて削除されます。
作成が開始されると、画面に作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをタップしてください。
作成したリカバリーメディアには、「リカバリーメディア」であることがわかるように目印をつけてください。
- 10 [完了] ボタンをタップする

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『取扱説明書』を参照してください。

* PC引越ナビ搭載モデルのみ

前のパソコンから本製品に買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。

「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、本製品への移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。

本項目および「PC引越ナビ」の画面上では、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、本製品を「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■ 前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1

* マイクロソフト社が提供している最新の Service Pack を適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP Windows XP operating system 日本語版の全エディション

Windows Vista Windows Vista の全エディション

Windows 7 Windows 7 の全エディション

Windows 8 Windows 8 の全エディション

Windows 8.1 Windows 8.1 の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 5 - 2 「PC引越ナビ」について」

■ 移行の方法を確認する

設定やデータの移行をするには、microSD メモリカード*¹を使用する方法があります。microSD メモリカードが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要な microSD メモリカードは、あらかじめフォーマットしてください。

- microSD メモリカードのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。移行するファイルや設定内容に比べて、microSD メモリカードの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量の microSD メモリカードを移行用に使用することをおすすめします。
- microSD メモリカードの代わりに、USB フラッシュメモリを使用することもできます。本製品で利用できる USB フラッシュメモリについては、「4章 2 USB 対応機器を使う」で確認してください。

* 1 前のパソコンで microSD メモリカードが使用できるかどうかは、『前のパソコンに付属の説明書』を確認してください。

■ 移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- Internet Explorer の設定*¹
- Windows Live メール (Windows メールまたは Windows 8 および Windows 8.1 のメール機能、Outlook Express) の設定*^{2*4}
- Microsoft Outlook の設定*^{3*4}
- [ドキュメント] (または [マイドキュメント]) フォルダーに保存されているファイル
- デスクトップ上のファイル
- 任意のフォルダーに含まれるファイル

* 1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以上

* 2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express (バージョンが 6.0 SP1 以上)」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。

* 3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。

本製品には、Office 搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを Office が搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコン (本製品) にインストールする必要があります。

移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。

* 4 新しいパソコン (本製品) にメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。

「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート (取り込み) を行います。

メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。

詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。



メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。

大まかな流れは次のとおりです。

新しいパソコン（本製品）と前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

1章

使いはじめる前に

移行方法を決める

前のパソコンと新しいパソコン（本製品）の移行方法を選択する画面が表示されますが、[USBメモリで引っ越し] を選択します。「USBメモリ」をmicroSDメモ리카ードに読み替えて作業を進めてください。

本製品では、ほかの移行方法を行うことができません。

新しいパソコン
(本製品)



microSDメモ리카ード

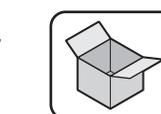


「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。

microSDメモ리카ードにコピーしてください。

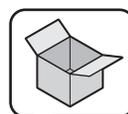
新しいパソコン
(本製品)



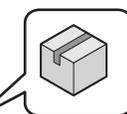
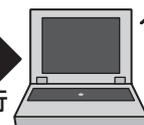
microSD
メモ리카ード

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。



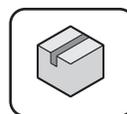
microSD
メモ리카ード*1



作成

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



microSD
メモ리카ード*1

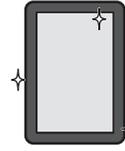


* 1 前のパソコンでmicroSDメモ리카ードが使用できるかどうかは、『前のパソコンに付属の説明書』を確認してください。

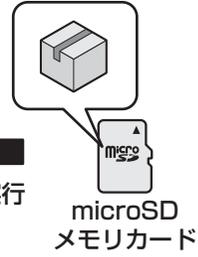
「こん包ファイル」を開く

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコン（本製品）で開き、コピーします。

新しいパソコン
（本製品）



実行



microSD
メモ리카ード

2 インストールについて

*購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「PC引越ナビ」がインストールされていない場合があります。「PC引越ナビ」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② 「PC引越ナビ」があるかどうかを確認する

「PC引越ナビ」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1** スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2** [ アプリケーションの再インストール] をタップする
- 3** [セットアップ画面へ] をタップする
- 4** [アプリケーション] タブをタップする
- 5** 画面左側の [PC引越ナビ] をタップし、[「PC引越ナビ」のセットアップ] をタップする
- 6** 画面の指示に従ってインストールする
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをタップしてください。

3 起動方法

1章

使いはじめる前に

1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする

2 [ PC引越ナビ] をタップする

「PC引越ナビ」が起動します。

3 画面下の  ヘルプ? ボタンをタップし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。

「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。

目次で [注意制限事項とメッセージ] をタップし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

4 [同意する] をチェックし、[次へ] ボタンをタップする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら操作してください。

メモ

- 「PC引越ナビ」の画面上では、「USBメモリ」としてUSBフラッシュメモリを使用した操作方法が説明されています。
microSDメモリカードはUSBフラッシュメモリと同様に使用できますので、「USBメモリ」と表示されている部分をmicroSDメモリカードに読み替えて、画面の指示に従ってください。

2章

■ 本製品の基本操作を覚えよう

本製品の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1	電源を入れる	32
2	使い終わったら	34
3	タッチ操作する	40
4	内蔵フラッシュメモリ	45
5	画面を調整する - ディスプレー -	46
6	サウンド	48
7	microSD メモリカードを使う - SD カードスロット -	50
8	Web カメラを使う	54

1 電源を入れる

Windows セットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

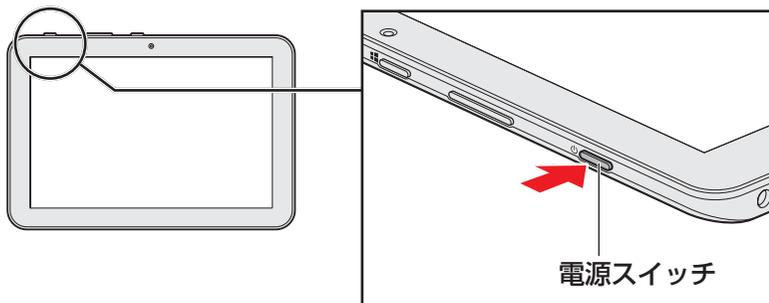
お願い 電源を入れるときは

- プリンターなどの周辺機器を接続している場合は、本製品より先に周辺機器の電源を入れてください。
- ディスプレイ（画面）に触れたまま電源を入れないでください。ディスプレイ（画面）が一時的に反応しない場合があります。

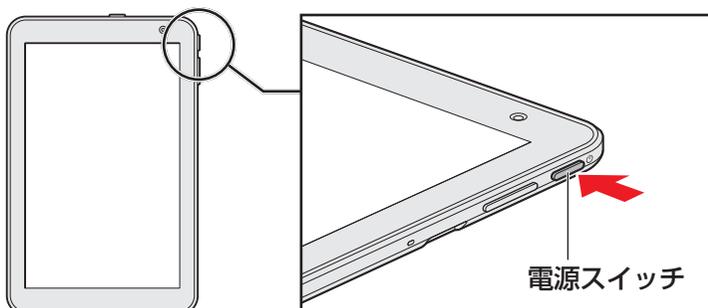
1 電源スイッチを押し、ロゴが表示されたら指をはなす

確実に電源スイッチを押してください。

■ S50シリーズの場合



■ S38シリーズの場合



ロック画面（画面左下に大きく日時が表示されている状態）が表示された場合は、画面の下側から上に向かってスワイプしてください。

次の画面に進みます。

各種パスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力して **Enter** キー（**↵**）をタップしてください。

複数のユーザーで1台の本製品を使用している場合、表示されているユーザーとは違うユーザーでサインインしたいときは、[ユーザーの切り替え] ボタン（**⇄**）をタップしてください。ユーザーの一覧が表示され、希望のユーザーを選択できます。

Windows が起動します。

 **メモ**

- しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
もう一度表示するには、電源スイッチを短く押してください。

2 使い終わったら

本製品を使い終わったときは、電源を切る「シャットダウン」を行ってください。
本製品の使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、本製品の使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押すなど）と、本製品の使用を中断したときの状態が再現されます。

2章

本製品の基本操作を覚えよう

警告

- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① チャームの [設定] をタップする
 - ② () をタップし、[ネットワーク] 画面で [機内モード] を [オン] に設定する
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- 内蔵フラッシュメモリやメディアへのアクセス中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。
- 記録メディア保護のために、記録メディアを取りはずしてください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、microSD メモリカードや USB 接続型の外付けハードディスクドライブなどのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中にバッテリー残量が減少した場合は、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを 10 秒間押しっぱなし電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windows エラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 電源を切る

本製品を使い終わったとき、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失ったりするおそれがあります。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

参照 ▶ スリープについて「本節 **2** スリープ」

電源を切るには、次のように操作してください。

1 画面の右端から左に向かってスワイプする



(表示例)

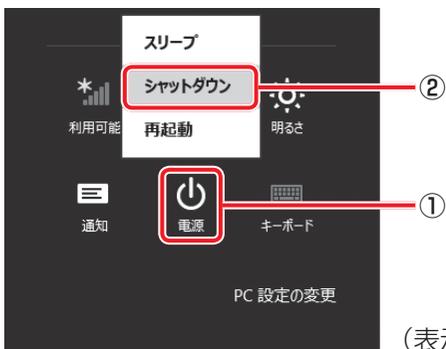
チャームが表示されます。

2 [設定] をタップする



画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [電源] をタップし①、表示されたメニューから [シャットダウン] をタップする②



(表示例)

Windows を終了したあと、本製品の電源が自動的に切れます。

 メモ

- デスクトップ画面の [スタート] アイコン () を長押しして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [シャットダウン] をタップしても、電源を切ることができます。
- 電源スイッチを約2~9秒押すと、「スライドしてPCをシャットダウンします」という画面が表示されます。この画面を下に向かってスライドしても、電源を切ることができます。
- システムが操作できなくなり、電源を切ることができない場合は、電源スイッチを10秒以上押すと、強制的に電源を切る (強制終了) ことができます。
強制終了は、システムが操作できなくなったとき以外には行わないでください。強制終了を行うと、スリープ/休止状態は無効になり、保存されていないデータは消失します。
- 電源が入っている状態で電源スイッチを短く押すと、画面表示がOFFになります。もう一度表示するには、電源スイッチを短く押してください。

お願い 電源を切ったあとは

- 本製品に接続している機器 (周辺機器) の電源は、本製品の電源を切ったあとに切ってください。
- 本製品や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け/取りはずし、BIOSセットアップの設定などを行うときは、以下の手順で電源を切ってください。
 - ① 画面の右端から左に向かってスワイプしてチャームを表示する
 - ② [設定] をタップする
 - ③ [PC設定の変更] をタップする
 - ④ [保守と管理] → [回復] の [今すぐ再起動する] をタップする
 - ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう一度起動することを「再起動」といいます。本製品の設定を変えたときや本製品がスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。再起動するには、次のように操作してください。

- ① チャームの [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- ② [電源] をタップし、表示されたメニューから [再起動] をタップする

 メモ

- デスクトップ画面の [スタート] アイコン () を長押しして、表示されるメニューから [シャットダウンまたはサインアウト] → [再起動] をタップしても、再起動することができます。

2 スリープ

本製品の使用中を中断する場合は、本製品を「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。

スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 画面の右端から左に向かってスワイプする

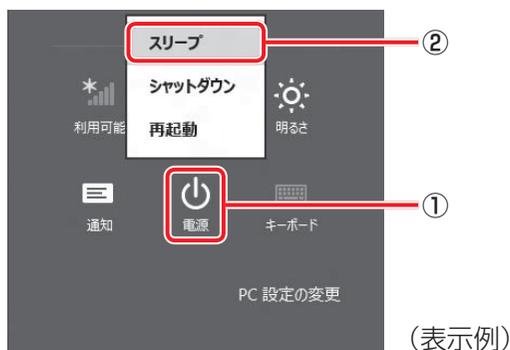
チャームが表示されます。

参照▶ チャームの操作方法「1章 1 - 2 チャームの操作について」

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [電源] をタップし①、表示されたメニューから [スリープ] をタップする②



スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを短く押してください。

3 休止状態

本製品の使用を中断する場合、設定によって、自動的に休止状態にできます。

参照 ▶ 休止状態にするための設定「5章 1 - 1 - 2 バッテリー充電量が減少したとき」

休止状態になると、本製品の使用を中断したときの状態が内蔵フラッシュメモリに保存されます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。電源スイッチを押すと、中断時の状態が再現されます。

4 簡単に電源を切る／本製品の使用を中断する

チャームから操作しないで、本製品の電源スイッチを押したときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープにすることができます。

1 本製品の電源スイッチを押したときの動作の設定

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Windows システムツール] の  [コントロールパネル] をタップする
- 3  [ハードウェアとサウンド] をタップする
- 4  [電源ボタンの動作の変更] をタップする
- 5 [電源ボタンを押したときの動作] で [スリープ状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。
- 6 [変更の保存] ボタンをタップする

本製品の電源スイッチを短く押すと、手順 **5** で設定した状態へ移行します。

3

タッチ操作する

本製品では、画面の表面を指でタッチして操作することができます。
画面上のキーボードを使って文字を入力することもできます。

2章

本製品の基本操作を覚えよう

お願い タッチ操作について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 3 タッチ操作について」

メモ

- アプリケーションや機能によっては、画面をタッチして操作できない場合があります。

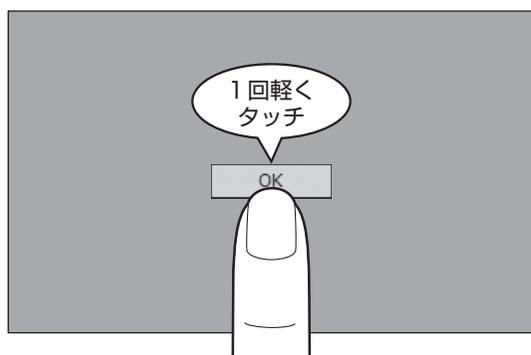
1 指でタッチして操作する

本製品では、画面の表面を指でタッチすることによって、さまざまな操作を行うことができます。
ここでは、指を使った基本的な操作を説明します。

■ タップ

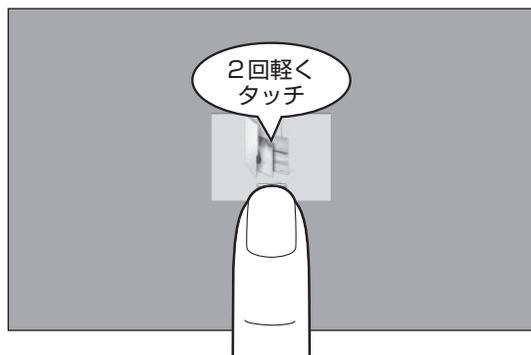
目的のアイコンやボタンなどを1回軽くタッチします。

ボタンの操作、アプリケーションの起動、文字の入力などが行えます。



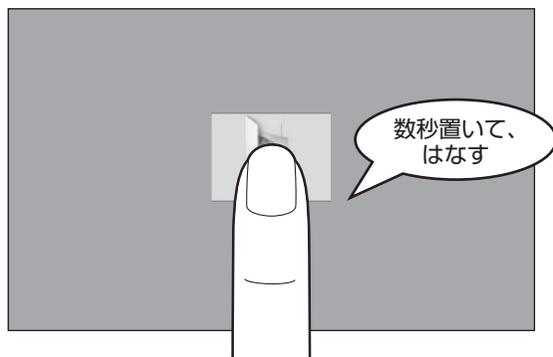
■ダブルタップ

目的のアイコンなどを2回軽くタッチします。
アプリケーションの起動などが行えます。



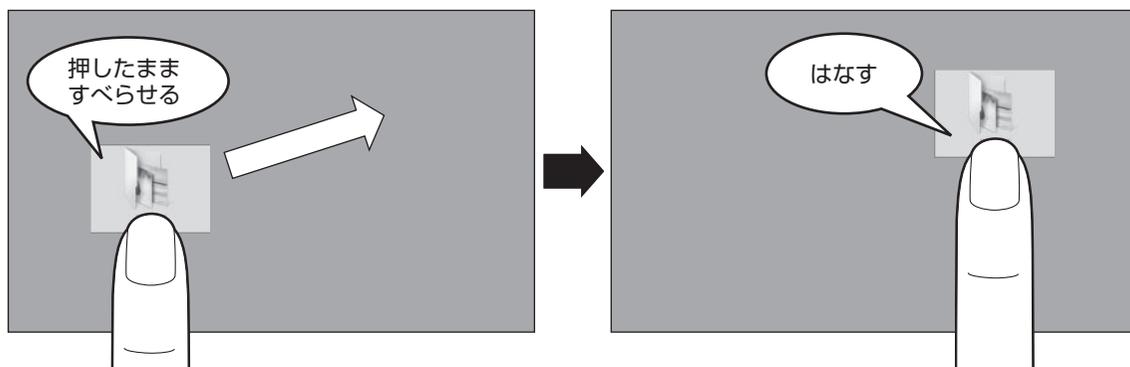
■長押し (ロングタップ)

アイコンなどの上に指を数秒置いて、はなします。
触れているアイコンに対して、メニューなどが表示されます。



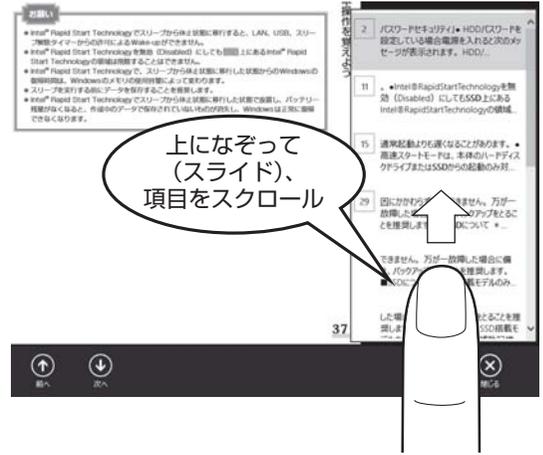
■ドラッグ

アイコンなどの上に指を置き、移動したい場所まですべらせませす。



■ スワイプ、スライド

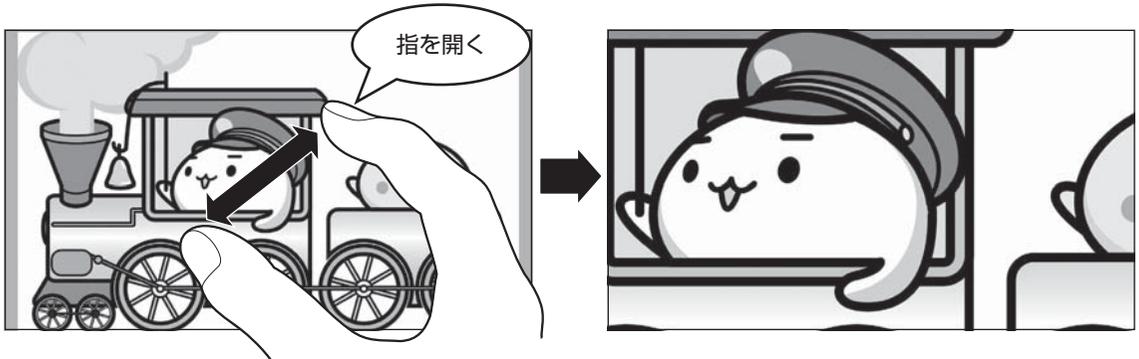
画面に指を置き、画面を軽くはらうように動かしたり（スワイプ）、なぞったり（スライド）します。画面を左右に切り替えたり、画面に表示しきれない一覧をスクロールする場合などに行います。



■ ピンチアウト、ピンチイン

画面に指を2本置き、指を開いたり閉じたりすることで、画面に表示している内容や、画像の表示サイズを変更できます。

指を開く（ピンチアウトする）と拡大され、閉じる（ピンチインする）と縮小されます。



メモ

- ダブルタップを行っても、画面に表示している内容などを拡大／縮小できます。

2 タッチキーボードについて

デスクトップ画面の通知領域で [タッチ キーボード] アイコン () をタップすると、画面にキーボードが表示されます。

1 タッチキーボードの種類

タッチキーボードは、購入時の状態では用途に合わせて3種類のパターンがあります。キーボードの右下にある ( /  / ) *1 をタップすると、各キーボードのアイコンが表示されます。使用したいキーボードのアイコンをタップしてください。

*1 選択しているキーボードによって、表示されるアイコンは異なります。

各キーボードのアイコンと、そのアイコンをタップして表示されるキーボードは、次のとおりです。

画像は表示例です。入力方法の変更などにより、キーの表示が変わります。



一般的なキー配列のキーボードです。

パソコンのキーボードの、ローマ字入力方式と同じ要領で文字を入力できます。



(表示例)



キーボードが左右に分かれています。

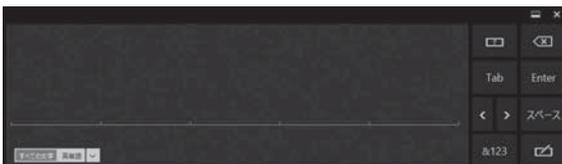
左側のキーボードでは、英数字や記号などを入力できます。右側のキーボードでは、ひらがなや漢字などを、「トグル入力」(「ケータイ入力」)と同じ要領で入力できます。



(表示例)



画面上をなぞって文字を入力します (手書き入力)。



(表示例)

 メモ

- キーボードの右上の  をタップ、またはキーボードの  /  /  をタップ→ [キーボードの非表示] をタップすると、キーボードを非表示にできます。

2 キーについて

タッチキーボードの一般的な機能キーについて説明します。

文字入力時に使用するアプリケーションやキーボードの種類、入力モードによって、表示されるキーは異なります。

キー	機能
	カーソルの左側の文字を削除します。
Enter、 	入力中の文字を確定します。
 、  、 	キーボードの種類を切り替えます。
 、 	カーソルを移動します。
あ、A	入力モードを切り替えます。
カタ英	入力中の文字の、カタカナや英字の変換候補を表示します。
	顔文字キーや絵文字キーを表示します。
Ctrl	ショートカットキーを表示します。
&123	記号キーと数字キーを表示します。
	英字の大文字／小文字を切り替えます。
Tab	項目を移動するときなどに使用します。
 、 	表示されているキーを切り替えます。
	画面上をなぞって文字を入力する（手書き入力）キーボードを表示しているときに、ヘルプを表示します。
次頁	入力中の文字の変換候補の次ページを表示します。
次候補	入力中の文字の変換候補の中から、次の候補を選択します。
 、 	キーボードの表示に合わせて一部のアプリケーションの画面サイズを変更します。 キーボードの横幅表示も切り替わります。

本製品には、内蔵フラッシュメモリが搭載されています。
内蔵フラッシュメモリは、取りはずしができません。

お願い 操作にあたって

- 本製品を激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 **5** - **4** 内蔵フラッシュメモリについて」

内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
内蔵フラッシュメモリに記録された内容は、microSD メモリカードやUSB フラッシュメモリ
などの記録メディアにコピーしてバックアップをとることができます。

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。

1 画面の明るさを調整する

本体ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

□ 輝度の調整方法

- 1 画面の右端から左に向かってスワイプする
チャームが表示されます。
- 2 [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- 3 [明るさ] または [ディスプレイ] をタップして、表示されたバーで輝度を調整する
画面の輝度を確認しながら、つまみを上下にドラッグして調整してください。

2 画面の向きを設定する

画面表示の向きは、ディスプレイの向きに合わせて自動的に回転する設定になっています。

メモ

- 画面表示の向きを固定にしたい場合は、設定を変更してください。
 - ① 画面表示を、固定させたい向きにする
 - ② 画面の右端から左に向かってスワイプする
チャームが表示されます。
 - ③ [設定] をタップする
 - ④ [ディスプレイ] をタップする
 - ⑤ [自動回転を無効にします] () をタップする
自動的に回転する設定に戻す場合は [自動回転を有効にします] () をタップしてください。
- アプリケーションによっては、画面を縦にした状態では適切に動作しない場合があります。その場合は、画面を横にした状態で使用してください。
- 次の場合は、表示の向きを変更することはできません。
 - ・ テレビ／外部ディスプレイを接続した場合
 - ・ 表示の向きの固定をサポートしていないアプリケーションの場合 など
- アプリケーションによっては、画面の向きの固定や自動回転に対応していない場合があります。

 **役立つ操作集****画面を見やすく設定する****●DPIの設定**

アプリケーションの文字が重なったり、切れたりする場合は、DPIを低く設定します。次の手順で設定してください。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [TOSHIBA] の [ 画面設定ユーティリティ] をタップする
「東芝画面設定ユーティリティ」が起動します。
- ③ [デスクトップテキストサイズ] タブで [すべてのディスプレイで同じ拡大率を使用] をチェックする
- ④ [簡単設定] または [詳細設定] を選択する
- ⑤ 各項目を設定し、[OK] ボタンをタップする
設定した内容を有効にするには、いったんサインアウト／サインインする必要があります。すぐにサインアウト／サインインする場合は、表示されたメッセージを確認し、[今すぐサインアウト] をタップしてください。
「デスクトップテキストサイズ」の詳細については、ヘルプを参照してください。

●ヘルプの起動方法

- ① 「東芝画面設定ユーティリティ」を起動後、[デスクトップテキストサイズ] タブで [デスクトップテキストサイズについて] をタップする
「東芝画面設定ユーティリティ：デスクトップテキストサイズ ヘルプ」が表示されます。

6 サウンド

スピーカーの音量やWindowsのシステム音を調整する方法について説明します。

2 章 2 本製品の基本操作を覚えよう

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

ボリュームコントロールはWindowsがコントロールしているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

1 音量ボタンで調整する

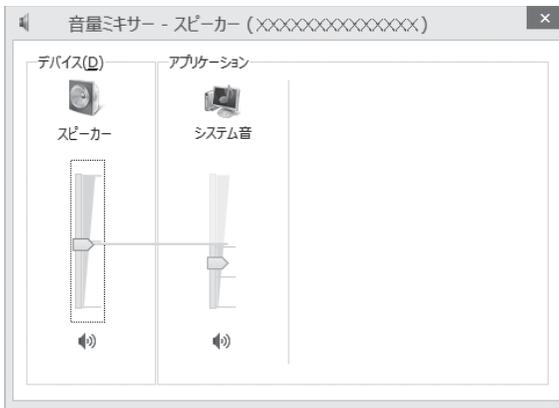
1 本製品の音量ボタンを押す

音量ボタンの「-」を押すたびに音量が小さくなり、「+」を押すたびに音量が大きくなります。

参照▶ 音量ボタンの位置『取扱説明書 1 章 2 各部の名称』

2 音量ミキサーから調整する

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ システム音量の調整] をタップする
[音量ミキサー] 画面が表示されます。
- 4 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する
[ミュート] ボタン () をタップすると消音 (ミュート) になります。



(表示例)

□ 音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント (メッセージの表示、システムエラーなどの動作) で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 ▶ 詳細について『アプリケーションに付属の説明書』

 **メモ**

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、本製品で再生中の音声を録音することはできません。

本製品ではmicroSDメモリカードをSDカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

次のイラストは、実際のものとは多少異なる場合があります。

- microSDメモリカード^{*1*2*3}
(以降、microSDHCメモリカード^{*1*2*3}、microSDXCメモリカード^{*1*2*3}を含みます。)



- *1 すべてのメディアの動作を保証するものではありません。高速データ転送には対応していません。
- *2 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- *3 microSDIOカードには対応していません。

使用できるmicroSDメモリカードの容量については『dynabook **** (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 microSDメモリカードを使う前に

お願い microSDメモリカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 6 - 1 microSDメモリカードを使うにあたって」

新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、microSDメモリカードを使えるようにすることです。

フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 カードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

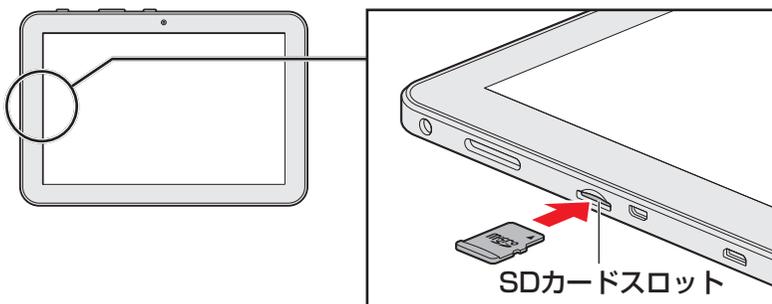
参照 「付録 6 - 1 - 1 microSD メモリカードの操作にあたって」

1 セットする

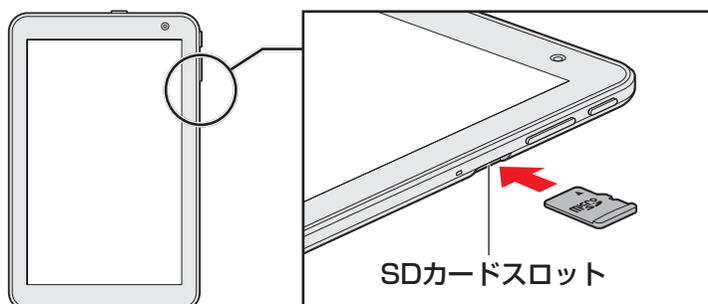
1 microSD メモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SDカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

■ S50シリーズの場合



■ S38シリーズの場合



2 セットしたカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されたファイルについては見ることはできない場合があります。

1 スタート画面の [デスクトップ] をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

2 タスクバーの [エクスプローラー] アイコン () をタップする

「エクスプローラー」が起動します。

3 [PC] をタップする

[PC] 画面が表示されます。

4 カードのアイコンをダブルタップする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

microSD メモリカード : リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD

セットした microSD メモリカードの内容が表示されます。

2 章

本製品の基本操作を覚えよう



メモ

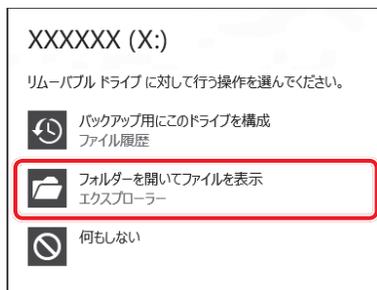
- microSD メモリカードによっては、SD カードスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、microSD メモリカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。次のように操作してください。

① メッセージをタップする

SD Card (X:)
タップして、リムーバブルドライブ に対して行う操作を選んでください。

(表示例)

② [フォルダーを開いてファイルを表示] を選択する



(表示例)

3 取り出す

microSD メモリカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。

ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 microSD メモリカードの使用を停止する

- ① スタート画面の [デスクトップ] をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

- ② 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () または () をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。



(表示例)

- ③ 表示されたメニューから [(取りはずす microSD メモリカード) の取り出し] をタップする
- ④ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をタップする

2 microSD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

8

Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が搭載されています。
写真や動画を撮影できます。

2章

本製品の基本操作を覚えよう

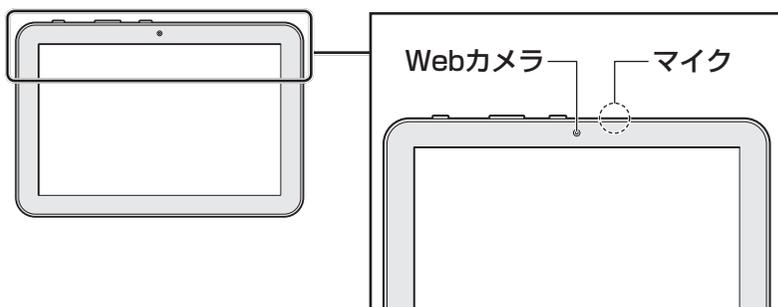
お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

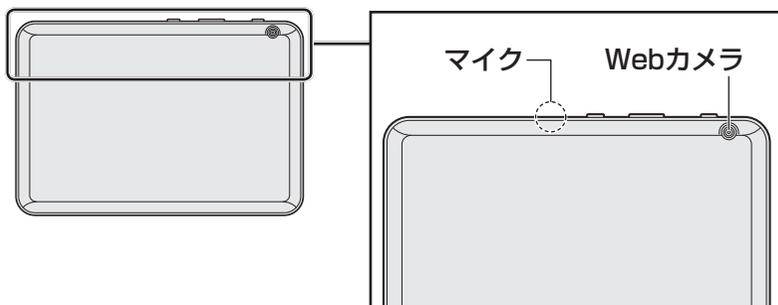
参照▶ 「付録 5 - 5 Webカメラについて」

□ S50シリーズの場合

■ Webカメラ（前面）

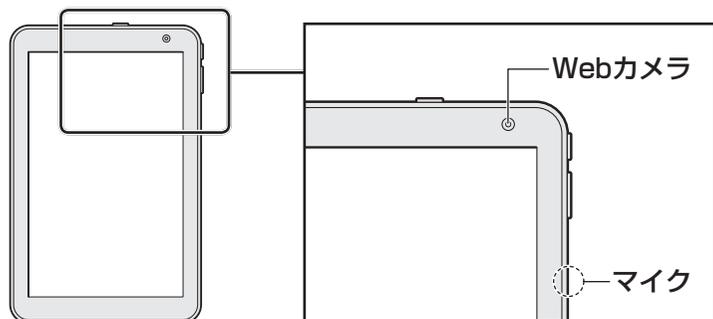


■ Webカメラ（背面）

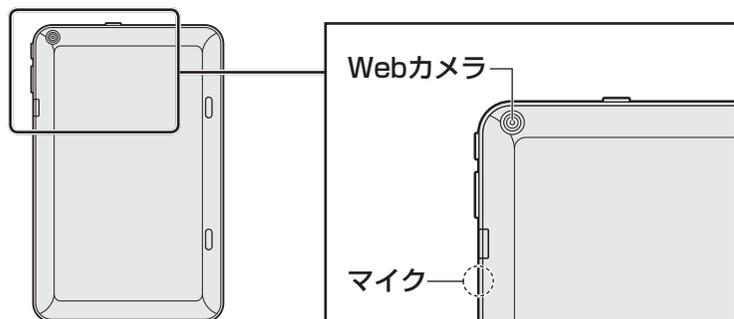


□ S38シリーズの場合

■ Webカメラ（前面）



■ Webカメラ（背面）



1 Webカメラのアプリケーションについて

Webカメラで写真を撮ったり、ビデオを録画するには、「カメラ」アプリケーションを使用します。

1 起動方法

1 スタート画面の [カメラ] () をタップする

初めて起動したときはメッセージが表示されるので、[許可] ボタンをタップしてください。

「カメラ」アプリケーションが起動します。

2 撮影の種類によって、次の操作を行う

■ ビデオ録画の場合

- ① ビデオ録画を開始するには () をタップし、終了するには () をタップする

■ 写真撮影の場合

- ① () をタップする

■ パノラマ写真撮影の場合

- ① () をタップする

以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

- 写真やビデオ録画のデータは、デスクトップ画面のタスクバーの [エクスプローラー] → [PC] → [ピクチャ] → [カメラロール] に保存されています。
- 前面と背面のWebカメラを切り替えて撮影することができます。
切り替えるときは、画面の下端から上に向かってスワイプし、画面下に表示される [カメラの切り替え] をタップしてください。

3章

■ ネットワークの世界へ

ネットワークや無線LANの概要について説明しています。
また、本製品が無線LANアクセスポイントと通信するための設定方法を説明しています。

- 1 ネットワークで広がる世界 58
- 2 無線LANを使う 59

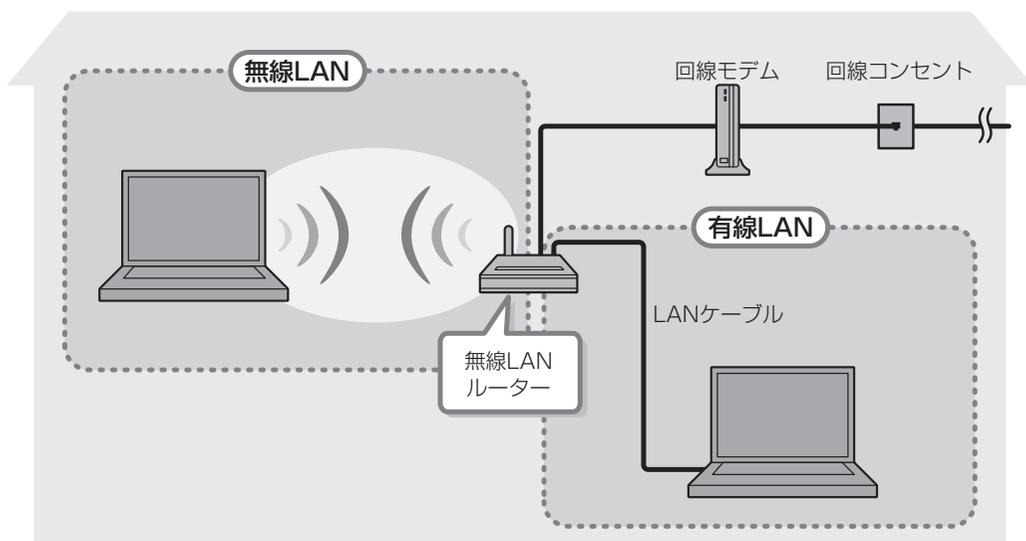
1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンやタブレットを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンやタブレットを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンやタブレットを持っている場合など、複数のパソコンやタブレットがあるときは、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)

本製品では、無線LANを使用することができます。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンやタブレットにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販品）を使用することによって、パソコンやタブレットからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。

ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。

また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

1 無線LAN機能をONにする

 警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① チャームの [設定] をタップする
 - ② () をタップし、[ネットワーク] 画面で [機内モード] を [オン] に設定する
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

お願い

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
 - 参照 ▶ 「付録 5 - 6 無線LANについて」
- 本書に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。
 - 参照 ▶ 「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

1 画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [PC設定の変更] をタップする

[PC設定] 画面が表示されます。

4 [ネットワーク] をタップする

5 [機内モード] をタップする

6 「機内モード」を [オフ] に設定する

[オン] になっている場合は、[オフ] にしてください。
[オフ] にすると、無線通信機能がONになります。

7 「ワイヤレス デバイス」の [Wi-Fi] を [オン] に設定する

[オフ] になっている場合は、[オン] にしてください。
[オン] にすると、無線LAN機能がONになります。
以降の無線LANの設定は、次項「無線LANを設定する」を参照してください。

2 無線LANを設定する

無線LANアクセスポイントと本製品が、無線LANで通信できるように設定を行います。



- 無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

「付録 2 デイリーケアとアフターケア」

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントと本製品の双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次の設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 無線 LAN アクセスポイントの電源を入れ、無線通信機能を ON にする

参照▶ 無線 LAN アクセスポイントの操作の詳細について
『無線 LAN アクセスポイントに付属の説明書』

2 画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

3 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

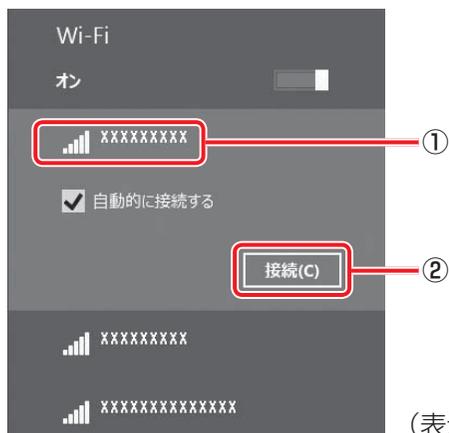
4 () をタップする

[ネットワーク] 画面が表示されます。



(表示例)

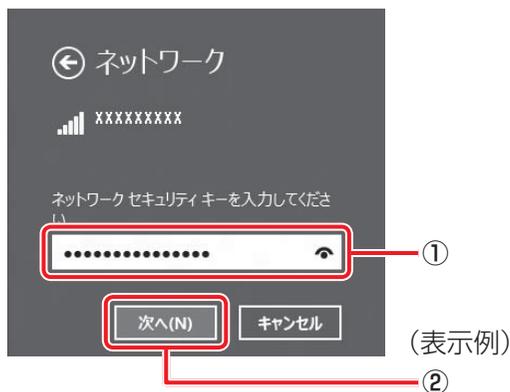
本製品の周囲にあるワイヤレス ネットワーク (無線 LAN アクセスポイント) の SSID の一覧が表示されます。

5 接続するワイヤレスネットワークをタップし①、[自動的に接続する] をチェックした状態で [接続] ボタンをタップする②

(表示例)

環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークの SSID が表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

6 ネットワークセキュリティ情報を入力して①、[次へ] ボタンをタップする②



以降は、画面の指示に従って操作してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントに付属の説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

4章

■ 周辺機器を使って機能を広げよう

本製品でできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に	64
2 USB対応機器を使う.....	65
3 テレビや外部ディスプレイを接続する.....	68
4 ヘッドセットやヘッドホンを使う	73
5 Bluetooth機能を使う	76

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、本製品に接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、本製品の性能を高めたり、本製品が持っていない機能を追加することができます。

周辺機器は、本製品の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつながります。

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。

購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。

周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 5 - 7 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。使用できる周辺機器の種類は、モデルによって異なります。

- USB対応機器（マウス、キーボードなど）
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- ヘッドセット／ヘッドホン
- Bluetooth対応機器（マウス、キーボードなど）

参照▶ 「本章 2」以降

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

本製品では次のUSB対応機器を使用することができます。

- USB フラッシュメモリ
- USB 接続型ハードディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応キーボード
- USB 対応ハブ など

本製品のmicroUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」

USBケーブルについて

市販のUSBケーブルで、本製品に接続する側のプラグが、microBタイプのもので使用してください。接続するUSB対応機器側のプラグについては、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

USB (Aタイプ) のケーブルの場合は、USBデバイスアンドチャージケーブル (東芝製オプション) を使用してください。

参照 USBデバイスアンドチャージケーブルの使いかた
『USBデバイスアンドチャージケーブルに付属の説明書』

1 取り付け

本製品やUSB対応機器の電源が入っている状態でも、取り付けることができます。

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

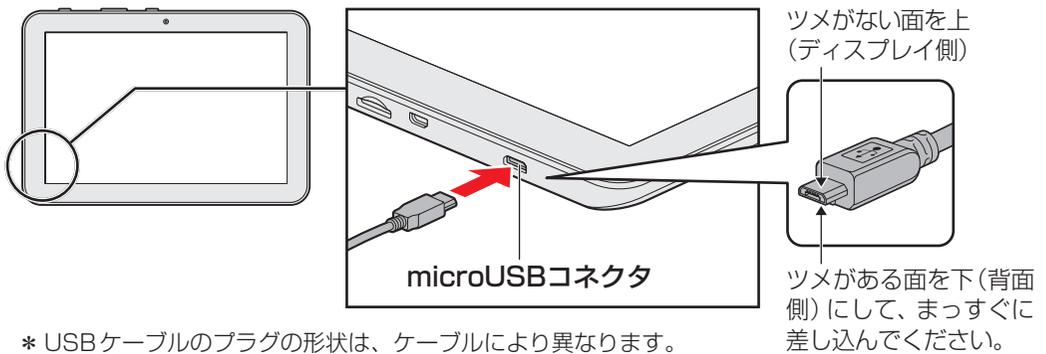
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグを本製品のmicroUSBコネクタに差し込む

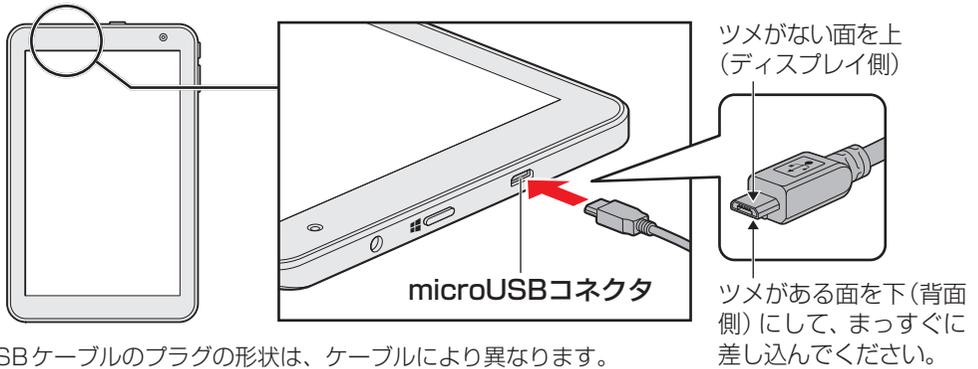
プラグの向きを確認し、正しく差し込んでください。

誤った向きに差し込むと、microUSBコネクタやプラグが破損するおそれがあります。

■ S50シリーズの場合



■ S38シリーズの場合



2 取りはずし

1 USB 対応機器の使用を停止する

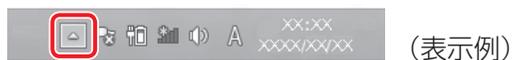
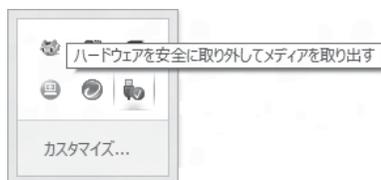
- ① スタート画面の [デスクトップ] をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

- ② 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () または () をタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をタップしてください。

この操作を行ってもアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 2 に進んでください。



- ③ 表示されたメニューから取りはずす USB 対応機器の項目をタップする
 ④ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をタップする

2 本製品と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

本製品とテレビ／外部ディスプレイを接続すると、本製品の画面を、接続したテレビ／外部ディスプレイの画面に表示させることができます。

本製品とテレビ／外部ディスプレイを接続するには、次の方法があります。

- エイチディーエムアイ HDMIケーブルで接続する
 - * HDMI (micro) 出力端子搭載モデルのみ
- ワイヤレスディスプレイ機能で接続する
 - * ワイヤレスディスプレイ機能搭載モデルのみ

ここでは、HDMIケーブルで接続する方法を説明します。

参照 ▶ ワイヤレスディスプレイ機能で接続する

「6章 **7** 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する」

1 HDMIケーブルで接続する／取りはずす

* HDMI (micro) 出力端子搭載モデルのみ

本製品のHDMI (micro) 出力端子と、HDMI入力端子があるテレビ／外部ディスプレイを、HDMIケーブルで接続します。

お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

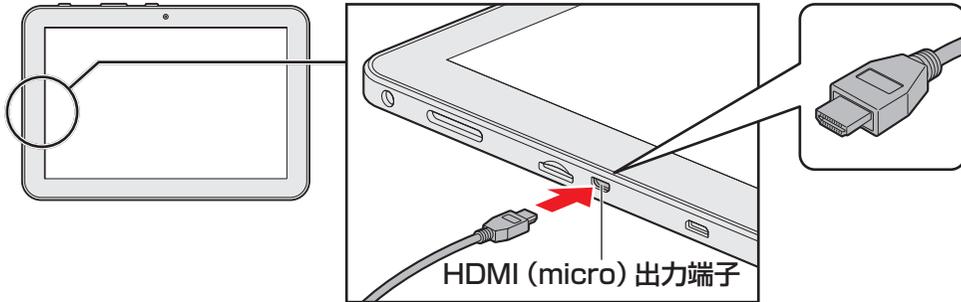
参照 ▶ 「付録 **5** - **7** - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

メモ

- HDMI対応機器すべての動作を保証するものではありません。
 - 接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。
 - HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルを使用してください。
 - 1,920 × 1,080 ドット以上の解像度の出力には、ハイスピードHDMIケーブルを使用してください。
なお、使用時には解像度の変更が必要です。
解像度については、スタート画面またはチャームの「検索」欄に「画面解像度を変更する」と入力して検索してください。
 - 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
 - テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。
- 参照** ▶ 「本節 **2** HDMIケーブルで接続時に表示を切り替える」
- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

HDMI (micro) 出力端子に接続する

- 1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをHDMI (micro) 出力端子に差し込む



* HDMIケーブルのプラグの形状は、ケーブルにより異なります。

メモ

- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

□ 音声の出力を本製品のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMIケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が変わらない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をタップする
[サウンド] 画面が表示されます。
- 4 [再生] タブでテレビのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをタップする
- 5 [OK] ボタンをタップする

この設定を行うと、本製品から音声が出力されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、本製品からの音声出力に戻す場合は、手順 **4** で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをタップしてください。

HDMI (micro) 出力端子から取りはずす

- 1 HDMI (micro) 出力端子からケーブルを抜く

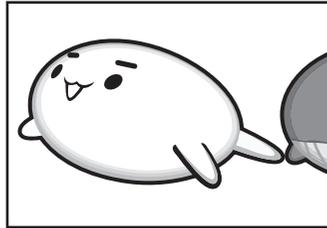
2 HDMIケーブルで接続時に表示を切り替える

* HDMI (micro) 出力端子搭載モデルのみ

HDMIケーブルでテレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■ 本体ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

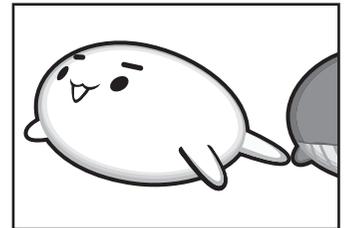
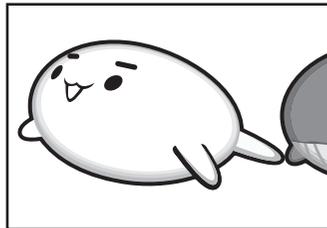
いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。



■ 本体ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

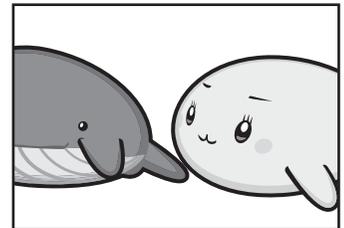
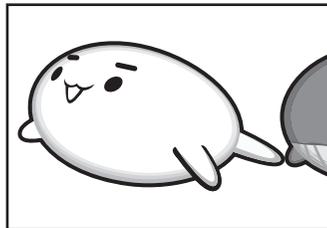
● クローン表示（複製）

表示装置それぞれに画面を表示します。



● 拡張表示

表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。



テレビ／外部ディスプレイに表示するには、表示装置の設定を行ってください。

メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度を変更される場合があります。本体ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 拡張表示では、スタート画面はメインディスプレイに設定した表示装置にのみ表示されます。
- 著作権保護された映像を、HDMI出力端子に接続したテレビ／外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビ／外部ディスプレイだけに表示するよう設定してください。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、電源スイッチを短く押すと表示が復帰します。表示が復帰するまで10秒前後かかる場合がありますが、故障ではありません。

表示装置を設定する

1 画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

参照▶ チャームの操作方法「1章 1 - 2」チャームの操作について」

2 [デバイス] をタップする

画面右側に [デバイス] 画面が表示されます。

3 [表示] をタップする

[表示] 画面が表示されます。



(表示例)

目的の項目をタップすると、表示装置が切り替わります。

各項目について説明します。

項目	概要
PC画面のみ	本体ディスプレイだけに表示します。
複製	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイにクローン表示します。
拡張	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。
セカンド スクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します (本体ディスプレイには何も表示されません)。

4 ヘッドセットやヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドセットやヘッドホンを接続できます。

お願い ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 7 - ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって」

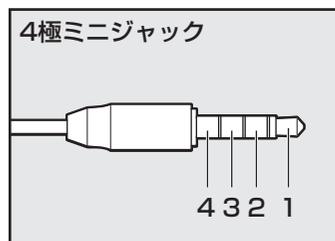
参照 音量の調整「2章 6 サウンド」

1 ヘッドセットを使う

ヘッドセットを使うと、音声ソフトの使用や音声を使ったチャットを行うことができます。本製品で外付けのマイクを使うときは、ヘッドセットのマイクを使用してください。

1 使用できるヘッドセット

本製品で使用できるヘッドセットは次のとおりです。



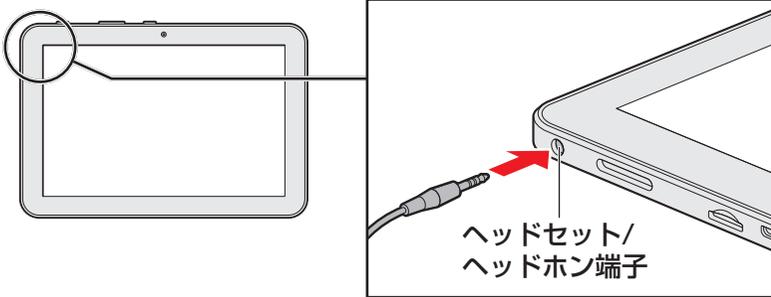
- プラグは直径3.5mm4極ミニジャックタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
 - 1：ヘッドホン左
 - 2：ヘッドホン右
 - 3：グラウンド
 - 4：マイク

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するヘッドセットを使用してください。

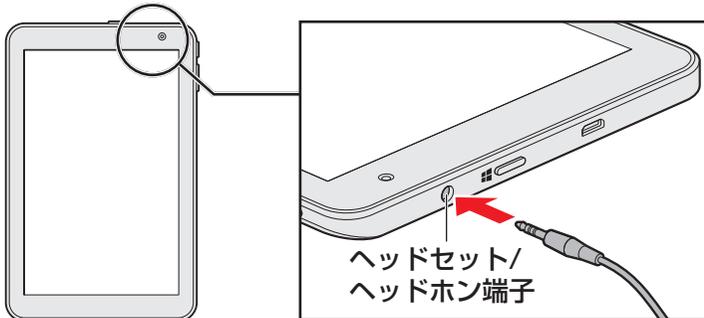
2 接続する

1 ヘッドセットのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む

■ S50シリーズの場合



■ S38シリーズの場合



取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドセットのプラグを抜きます。

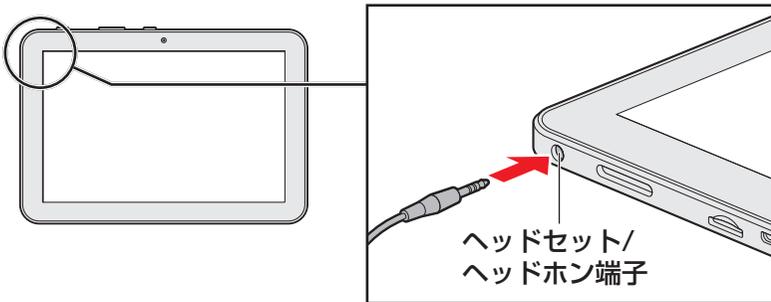
2 ヘッドホンを使う

ヘッドセット/ヘッドホン端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

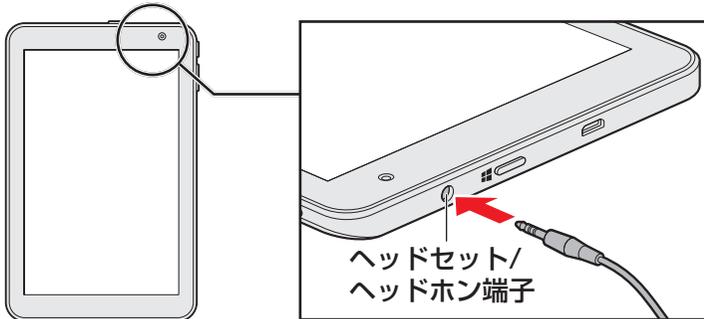
1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドセット/ヘッドホン端子に差し込む

■ S50シリーズの場合



■ S38シリーズの場合



取りはずすときは、ヘッドセット/ヘッドホン端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンの音量調整

ヘッドホンの音量は、音量ボタン、Windowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 ▶ 「2章 6 サウンド」

* Bluetooth機能搭載モデルのみ

Bluetooth機能搭載モデルには、Bluetooth機能が搭載されています。

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、本製品や周辺機器、携帯電話などの機器同士で無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 **5** - **7** - Bluetoothについて」



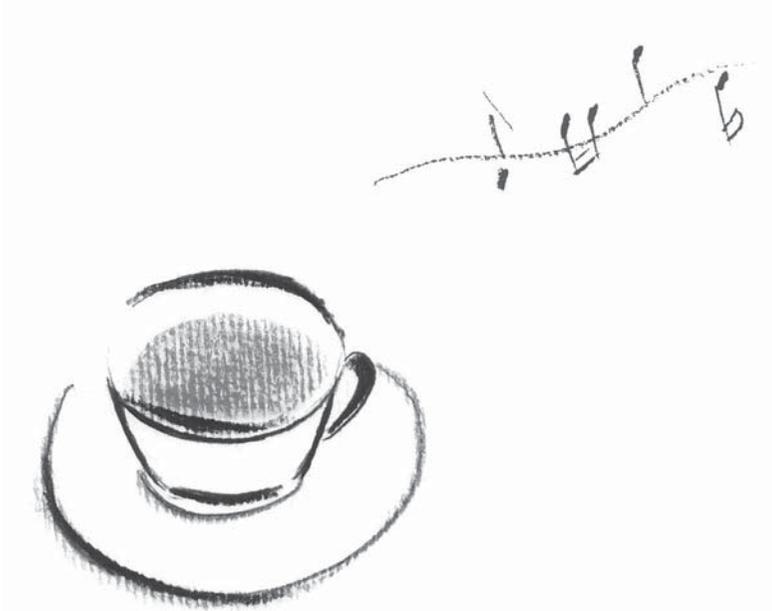
メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品に搭載されているBluetooth機能のバージョンについては、次の説明を確認してください。
参照 「付録 **9** - **3** Bluetoothの仕様」または『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』
- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth対応機器と接続する**警告**

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所では本製品の電源を切る
本製品を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、本製品の電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
 - ・ 無線通信機能は、次の手順でOFFにすることができます。
 - ① チャームの [設定] をタップする
 - ② () をタップし、[ネットワーク] 画面で [機内モード] を [オン] に設定する
 - ・ スリープや休止状態では、本製品が自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
 - ・ 電源を切った状態でも、本製品が自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

- 1** Bluetooth対応機器の電源を入れ、Bluetooth機能をONにする
Bluetooth対応機器の操作方法の詳細は、『Bluetooth対応機器に付属の説明書』をご確認ください。
- 2** 画面の右端から左に向かってスワイプする
チャームが表示されます。
- 3** [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- 4** [PC設定の変更] をタップする
[PC設定] 画面が表示されます。
- 5** [ネットワーク] をタップする
[ネットワーク] 画面が表示されます。
- 6** [機内モード] をタップする
- 7** 「機内モード」を [オフ] に設定する
[オン] になっている場合は、[オフ] にしてください。
[オフ] にすると、無線通信機能がONになります。
画面左側に「ネットワーク」のメニューが表示されている場合は手順 **8** に進んでください。
- 8** 「機内モード」の  をタップする
- 9** 「ネットワーク」の  をタップする
- 10** [PCとデバイス] をタップする
[PCとデバイス] 画面が表示されます。
- 11** [Bluetooth] をタップして、[Bluetooth] を [オン] に設定する
[オフ] になっている場合は、[オン] にしてください。
[オン] にすると、Bluetooth機能がONになります。
周辺のBluetooth対応機器が検出され、表示されます。
- 12** 接続するBluetooth対応機器をタップする
画面に従って設定してください。



5章

■ バッテリー駆動で使う

本製品をモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1	バッテリーについて	80
---	-----------------	----

1 バッテリーについて

本製品には、バッテリーパックが内蔵されています。

本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

5章

バッテリー駆動で使う

⚠ 危険

- 本製品に内蔵されているバッテリーパックを使用する

お客様ご自身でのバッテリーパックの取りはずしや交換はできません。

寿命などで交換する場合のお問い合わせ先は、『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』で確認してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

お願い バッテリーを使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

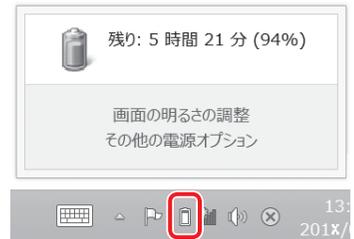
参照▶ 「付録 5 - 8 バッテリーについて」

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 通知領域の【バッテリー】アイコンで確認する

デスクトップ画面の通知領域の【バッテリー】アイコン（ または ）をタップすると、バッテリー充電量が表示されます。



(表示例)

2 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

● バッテリーのアラームが動作する

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
 - ② [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
 - ③ [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をタップする
- 「電源オプション」が起動します。
- ④ [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をタップする
 - ⑤ [詳細設定] タブの [バッテリー] をダブルタップする
 - ⑥ [低残量バッテリーの通知] や [低残量バッテリーの動作] で設定する

バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

警告が起こった場合はただちに本製品に電源コードとACアダプターを接続し、充電してください。

購入時は、[バッテリー切れの動作] が休止状態に設定されています。

バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、本製品は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、電源コードとACアダプターを接続したまま本製品を使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 5 - 8 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 本製品に、付属の電源コードとACアダプターを接続して、コンセントに差し込む

2 バッテリー充電量が「100%」になるまで充電する

バッテリー充電量は、デスクトップ画面の通知領域の [バッテリー] アイコン ( または ) をタップして確認してください。

メモ

- 本製品を長時間で使用にならないときは、電源コードとACアダプターをコンセントから抜いてください。

■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。詳しくは、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、本製品の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳しくは、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア (3Dグラフィックス使用など) を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

本製品を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。

バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時はこまめに電源を切ることをおすすめします。

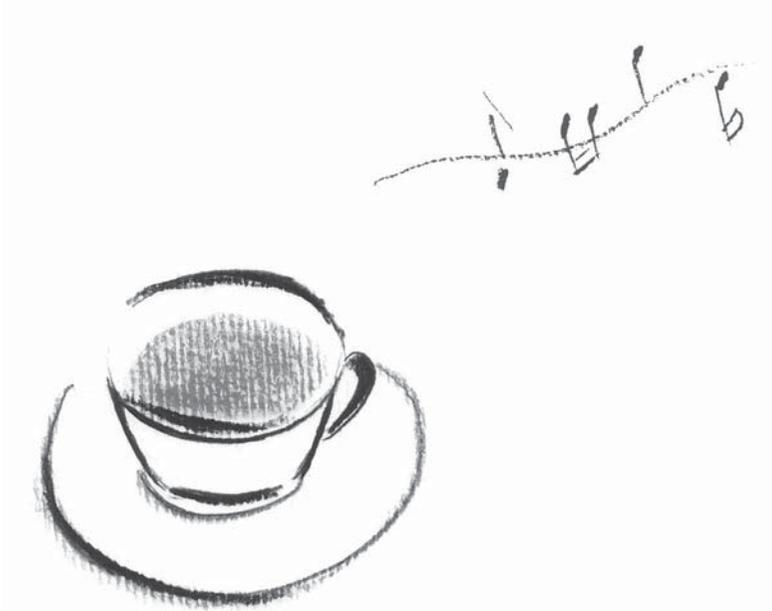
2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- 本製品を長時間使用しないときは、電源コードとACアダプターをコンセントから抜いてください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続して本製品を使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動で本製品を使用してください。



6章

■ アプリケーション

本製品に用意されているアプリケーションについて説明しています。
用意されているアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

- 1 ウイルスバスターを使う 86
- 2 i-フィルター6.0を使う..... 90
- 3 インターネット上のサービスでバックアップする
-バックアップナビ クラウド- 92
- 4 Skypeで通話する 93
- 5 デジタルカメラの写真を楽しむ 96
- 6 メディアサーバーの映像を本製品で楽しむ..... 98
- 7 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイに
ワイヤレスで表示する 100
- 8 パソコンの画面を本製品の画面に表示する
-東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット- ... 102
- 9 撮影したホワイトボードの画像を補正する
- TruCapture - 103

1 ウイルスバスターを使う

* ウイルスバスター搭載モデルのみ

「ウイルスバスター」は、個人情報保護、コンピューターウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

コンピューターウイルスは、次々と新しいものが出現します。「ウイルスバスター」のウイルスチェックは、パターンファイルに基づいて行いますので、最新のコンピューターウイルスに対応したパターンファイルをインターネットから入手する必要があります。「ウイルスバスター」は本製品をインターネットに接続していると、自動的にパターンを更新します。

「ウイルスバスター」を使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

お願い ウイルスバスターを使う

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用期限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。

1 体験版をインストールする

本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、90日間の使用期限がある体験版です。使用するには、インストールする必要があります。

メモ

- Windows セットアップで「使用許諾契約に同意しウイルスバスターの利用を開始します。」をチェックしている場合、自動的に「ウイルスバスター」がインストールされ、メールアドレスの入力画面が表示されます。メールアドレスをすでに持っている場合は入力し、[完了] ボタンをタップしてください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

自動的にインストールされない場合は、次の手順を参照してインストールしてください。

インストール手順

1 スタート画面の【デスクトップ】をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

2 【ウイルスバスターの登録とご利用継続】アイコン () または【ウイルスバスターのセットアップ】アイコン () をダブルタップする

■ 【ウイルスバスターの登録とご利用継続】アイコン () をダブルタップした場合

[ウイルスバスター クラウド] 画面が表示されます。

- ① 【今すぐ開始】をタップする
- ② 【同意する】をタップする

以降は、画面の指示に従って操作してください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

■ 【ウイルスバスターのセットアップ】アイコン () をダブルタップした場合

セットアップ画面が表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。メールアドレスは登録しなくても使用できます。

1 ウイルスバスターでウイルスをチェックする

「ウイルスバスター」のウイルスチェックの方法には、本製品で使用しているソフトウェアやファイルの動きを監視するリアルタイム検索や、定期的に検索を実行する予約検索などがあります。ここでは手動でウイルスを検索する手順について説明します。

1 スタート画面の [デスクトップ] をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

2 通知領域の [ウイルスバスター] アイコン (🔍) をダブルタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

[ウイルスバスター クラウド] 画面が表示されます。

3 [スキャン] ボタンをタップする



(表示例)

検索を開始します。

ウイルスのチェックが終わると、結果画面が表示されます。

ウイルスが発見された場合、初期設定ではウイルスやファイルの種類によって適切な処理が実行されるように設定されています。特別な理由がない限り設定を変更しないで使用することをおすすめします。

詳しくは、ヘルプを確認してください。

4 [閉じる] ボタン (✕) をタップする

2 ウイルスバスターのいろいろな機能

「ウイルスバスター」には、次のような機能があります。

- コンピューターウイルスを検出／除去する
- フィッシング詐欺への対策をする
- 迷惑メールや詐欺メールを判定して処理する
- スパイウェアを検出して処理する
- 有害サイトへのアクセスを制限する
- 個人情報の漏えいを防止する など

詳しくは、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動

ヘルプを見るためには、インターネットに接続する必要があります。

1 スタート画面の [デスクトップ] をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

2 通知領域の [ウイルスバスター] アイコン (🔍) をダブルタップする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

[ウイルスバスター クラウド] 画面が表示されます。

3 [ウイルスバスター クラウド] 画面で [ヘルプ] ボタン (🔍ヘルプ) をタップする



(表示例)

[ヘルプとサポート] 画面が表示されます。

参照 ウイルスバスターのお問い合わせ先について「付録 1 お問い合わせ先」

2 i-フィルター6.0を使う

*i-フィルター6.0搭載モデルのみ

「^{アイ}i-フィルター6.0」は、特定のホームページへのアクセスを制限することができるアプリケーションソフトです。

子供の年齢に合わせた設定や、アクセスを制限したいカテゴリの指定、制限の強弱も設定できます。パスワードを使用すれば、簡単に設定を解除することもできるので、大人から子供まで家族で個別に設定することができます。

「i-フィルター6.0」の無料お試し版を使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。

設定方法の詳細は、「i-フィルター6.0」のヘルプを確認してください。

お願い i-フィルター6.0について

- 無料使用期間はご使用開始より90日間です。無料使用期間が過ぎますと、設定がすべて解除されフィルタリング機能が使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。
- 一部の通信ソフトやフィルタリングソフトを併用できない場合があります。

1 インストールについて

* 購入時の状態ではインストールされていないモデルのみ

モデルによっては、購入時の状態で「i-フィルター6.0」がインストールされていない場合があります。

「i-フィルター6.0」がインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② 「i-フィルター6.0」があるかどうかを確認する

「i-フィルター6.0」がインストールされていない場合は、次の手順でインストールしてください。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [ アプリケーションの再インストール] をタップする
- 3 [セットアップ画面へ] をタップする
- 4 [アプリケーション] タブをタップする
- 5 画面左側の [i-filter] をタップし、[「i-filter」のセットアップ] をタップする
- 6 画面の指示に従ってインストールする
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをタップしてください。

2 i-フィルター6.0の無料お試し版のお申し込み方法

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 「i-フィルター6.0」の [ i-フィルター6.0] をタップする
「i-フィルター6.0」画面が表示されます。
- 3 [90日の無料お試し付き] ボタンをタップする
無料お試し版の使用を申し込むための画面が表示されます。

無料お試し版の使用のお申し込みには、メールアドレスやパスワードの入力が必要です。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

参照 ▶ 「i-フィルター6.0」のお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

* バックアップナビ クラウド搭載モデルのみ

「バックアップナビ クラウド」は、簡単な操作で本製品の写真や動画、音楽、「Microsoft Office」のデータをオンラインストレージサービスの「SugarSync」にバックアップができるアプリです。

ご利用にあたっては「SugarSync」の登録が必要になります。

「バックアップナビ クラウド」を利用するには、インターネットに接続する必要があります。

1 バックアップナビ クラウドを起動する

1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする

2  「バックアップナビ クラウド」をタップする

「バックアップナビ クラウド」が起動します。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

ヘルプの起動方法

「バックアップナビ クラウド」の詳細は、ヘルプを参照してください。

1 「バックアップナビ クラウド」を起動後、[ヘルプ] ボタンが表示されている画面で [ヘルプ] ボタンをタップする

* Skype搭載モデルのみ

「Skype」を使用すると、インターネット回線を利用した音声通話やビデオ通話を行うことができます。

「Skype」を使用するには、Microsoftアカウントが必要です。

また、「Skype」で通話を行うには、インターネットに接続する必要があります。

● 通話する

音声のみで通話を行います。通話には、内蔵のマイクまたはヘッドセットを使用します。

参照 ▶ マイクの位置について「2章 8 Webカメラを使う」

参照 ▶ ヘッドセットについて「4章 4 ヘッドセットやヘッドホンを使う」

● ビデオ通話する

ビデオ通話の場合は、本製品に搭載されているWebカメラまたは市販のWebカメラを使用します。

参照 ▶ Webカメラの位置について「2章 8 Webカメラを使う」

1 「Skype」を起動する

1 スタート画面の [Skype] () をタップする

初めて起動したときはメッセージが表示されるので、[許可] ボタンをタップしてください。

Microsoftアカウントへサインインしていない場合は、メッセージにしたがってサインインしてください。

2 ビデオ通話の内容を録画する – Corel ScreenCap –

* Corel SreenCap 搭載モデルのみ

ビデオ通話の内容を録画することができます。録画には「Corel VideoStudio」の「Corel ScreenCap」を使用します。

お願い

- ディスプレイ解像度が 1024 x 768 より小さい場合は、起動することができません。その場合は、解像度を大きくしてから再度アプリケーションを起動してください。
- お使いの環境によっては、高解像度の動画再生がスムーズでないことがあります。
- お使いの環境によっては、Webカメラから映像を取り込むことができない場合があります。

1 スタート画面の [Skype] () をタップする

[Skype] 画面が表示されます。

2 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする

3 [Corel VideoStudio X7] の [Corel ScreenCap X7] をタップする

初めて起動したときは [ライセンス契約書] 画面が表示されるので、[承認] ボタンをタップしてください。

[画面の録画] 画面が表示されます。

4 [キャプチャサイズ] の ▼ をタップして表示されるアクティブなプログラムのリストから [Skype] をタップする

5 [記録の開始] ボタン () をタップする

画面の録画が開始されます。

メモ

- 録画を停止する場合は、[画面の録画] 画面で [記録の停止] ボタン () をタップしてください。[画面の録画] 画面は、録画を開始するとタスクバーで最小化の状態になります。

ヘルプの起動方法

「Corel SreenCap」の詳細は、ヘルプを参照してください。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Corel VideoStudio X7] の [ ユーザーガイド] をタップする
- 3 [SreenCap X7] をダブルタップする

参照▶ 「Corel VideoStudio」のお問い合わせ先「付録 1 お問い合わせ先」

デジタルカメラで撮った写真のデータを本製品に取り込むと、本製品でさまざまに活用して楽しむことができます。

写真のデータを本製品に取り込むには、デジタルカメラを本製品に接続して取り込む方法や、記録メディアを本製品にセットしてデータをコピーする方法などがあります。デジタルカメラと本製品の両方が対応している方法で行ってください。

デジタルカメラの使いかたは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

参照▶ 記録メディアについて「付録 6 記録メディアについて」

ここでは、本製品に取り込んだ写真のデータを活用するための機能を紹介します。

1 自動的に写真を整理する – 思い出フォトビューア –

* 思い出フォトビューア搭載モデルのみ

「思い出フォトビューア」を使うと、[PC] の [ピクチャ] フォルダの写真を自動で整理し、タイムライン表示やカレンダー表示、スライドショーや「おもいで小槌」機能などで思い出の写真を見ることができます。

「おもいで小槌」機能は、写真を全画面表示にしているとき、アプリバーの [おもいで小槌] ボタンをタップすると、タップするたびに写真を切り替えて画面に表示します。(写真が降ってくるように表示されるので、小槌のように振って次々と写真を出す、という感覚で操作ができます。)

表示される写真は、[PC] の [ピクチャ] フォルダの写真からランダムに選ばれます。



メモ

- 本アプリケーションで利用できる写真データは、「jpeg」、「jpg」、「png」、「tif」、「tiff」、「bmp」形式のファイルです。

起動方法

1 スタート画面の [思い出フォトビューア] () をタップする

初めて起動したときは [エンドユーザ使用許諾契約書] 画面が表示されます。[同意する] ボタンをタップしてください。

使用許諾契約書の内容すべてを画面に表示しきれない場合は、スクロールして契約書の終わりまで確認すると、[同意する] ボタンをタップできます。

「思い出フォトビューア」が起動します。

以降は、画面の指示に従って、操作してください。

ヘルプの起動方法

「思い出フォトビューア」の詳細は、ヘルプを確認してください。

1 「思い出フォトビューア」を起動後、画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [ヘルプ] をタップする

ここでは、ホームネットワークを使って映像を本製品で楽しむ色々な方法を説明します。

1 TVコネクトスイートを使う

* TVコネクトスイート搭載モデルのみ

「TVコネクトスイート」を使うと、ホームネットワークに接続しているテレビ*¹やブルーレイディスクレコーダー*¹／レグザサーバー*¹（以下、メディアサーバー）で録画した番組や放送中の番組を、本製品で視聴することができます。また、メディアサーバーがリモート視聴に対応しているレグザサーバー／レグザブルーレイの場合は、外出先でインターネットに接続した本製品から自宅のレグザサーバー／レグザブルーレイに録画した番組を視聴することもできます。

「TVコネクトスイート」は、次の3つの機能から構成されています。

メディアサーバーと本製品がホームネットワークに接続していることを前提として説明します。

● 録画番組を見る

メディアサーバーに録画した番組を、本製品上の本アプリケーションで視聴したり、本製品へダビングしたりすることができます。メディアサーバーがリモート視聴対応している場合は、外出先でインターネットに接続した本製品から自宅のレグザサーバー／レグザブルーレイに録画した番組を視聴することもできます。

● 放送中の番組を見る

メディアサーバーで受信している番組を、ライブ配信して本製品上の本アプリケーションで視聴することができます。

● ダビングした番組を見る

メディアサーバーに録画して本製品にダビングした番組を、本アプリケーションで視聴することができます。

ダビングした番組は、外出先などのインターネットに接続していない場所でも視聴することができます。

* 1 「TVコネクトスイート」対応機種に限ります。

お願い

- 「TVコネクトスイート」で番組の視聴および番組をダビングする機能を初めて使用する際には、インターネットに接続してアクティベーションをする必要があります。
- リモート視聴機能を使用するためには、対応している機器と本製品をあらかじめ同じホームネットワークに接続し、さらにインターネットにも接続した状態でリモート視聴のための設定（メディアサーバーと本製品のペアリング設定）をする必要があります。ペアリング設定には有効期限があります。有効期限が過ぎた場合は、再度ペアリング設定をする必要があります。
- メディアサーバーの操作による番組のダビング機能を使用する場合は、「TVコネクトスイート ダビング設定ユーティリティ」でダビングの待ち受け機能を有効にする必要があります。「TVコネクトスイート ダビング設定ユーティリティ」をアンインストールすると、「TVコネクトスイート」が使用できなくなります。

TVコネクトスイートで視聴するために

「TVコネクトスイート」を使用するには、あらかじめ対応している機器を用意し、ホームネットワークに接続しておいてください。

1 TVコネクトスイートの操作方法

起動方法

1 スタート画面の「TVコネクトスイート」() をタップする

スタート画面に「TVコネクトスイート」が表示されていない場合は、スタート画面で画面の中央から上に向かってスライドしてから、 「TVコネクトスイート」をタップしてください。

2 使用する機能を選択する

「録画番組を見る」、「放送中の番組を見る」、「ダビングした番組を見る」から選択してください。リモート視聴の設定を行う場合は「リモート視聴設定」を選択してください。選択後は、画面に従って、操作してください。

ヘルプの起動方法

「TVコネクトスイート」の詳細は、「TVコネクトスイート 操作説明書」を確認してください。

1 「TVコネクトスイート」を起動後、画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

2 「設定」をタップする

画面右側に「設定」画面が表示されます。

3 「ヘルプ」をタップする

*ワイヤレスディスプレイ機能搭載モデルのみ

ワイヤレスディスプレイ機能を使って、本製品の表示画面をMiracast™に対応したテレビ／外部ディスプレイに表示することができます。

ただし、すべてのMiracast™対応機器との動作を保証するものではありません。

お願い ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。
 - ▶ **参照** 「付録 5 - 9 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって」
- 「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」の使用中は、ワイヤレスディスプレイ機能が使用できません。
 - ▶ **参照** 「本章 8 パソコンの画面を本製品の画面に表示する」

1 接続の前に

テレビ／外部ディスプレイを接続するときは、『テレビ／外部ディスプレイに付属の説明書』もあわせて確認してください。接続先のテレビ／外部ディスプレイは、Miracast™に対応している必要があります。

2 ワイヤレスディスプレイ機能で接続する

- 1 テレビ／外部ディスプレイの電源を入れ、ワイヤレスディスプレイ機能で接続するための準備を行う

参照▶ 各機器の操作方法の詳細『テレビ／外部ディスプレイに付属の説明書』

- 2 本製品の無線LAN機能をONにする

参照▶ 「3章 2 - 1」無線LAN機能をONにする」

- 3 画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

- 4 [デバイス] をタップする

画面右側に [デバイス] 画面が表示されます。

- 5 [表示] をタップし、[ワイヤレスディスプレイの追加] をタップする

検出したテレビ／外部ディスプレイが表示されます。

- 6 接続するテレビ／外部ディスプレイをタップする

画面に従って設定してください。

*東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット搭載モデルのみ

「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」は、ほかのパソコンの画面を、本製品の画面に表示するためのアプリケーションです。

パソコンのコンテンツを、本製品の画面でも楽しむことができます。

パソコンとの互換性情報は「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」のヘルプをご確認ください。

ただし、対応しているすべてのパソコンとの動作を保証するものではありません。



メモ

- ワイヤレスディスプレイ機能の使用中は、「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」が使用できません。

参照▶「本章 **7** 本製品の画面をテレビ／外部ディスプレイにワイヤレスで表示する」

起動方法

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [TOSHIBA] の [ スクリーンミラーリング] をタップする
「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」が起動します。
初回起動時にインターネットに接続していない場合、インターネットに接続してください。

ヘルプの起動方法

パソコンとの互換性情報、本機能を使用するための設定方法など、「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」の詳細は、ヘルプを確認してください。

ヘルプを使用するには、インターネットに接続する必要があります。

- 1 「東芝スクリーンミラーリング for Windows PC／タブレット」を起動後、[互換性情報はここをクリックしてください] をタップする

* TruCapture 搭載モデルのみ

「TruCapture」は、ホワイトボードや印刷物、ノートなどを撮影して電子化するアプリケーションです。領域の色と形を自動的に補正した画像ファイルを作成します。

起動方法

1 スタート画面の「TruCapture」() をタップする

初めて起動したときはメッセージが表示されるので、「許可」ボタンをタップしてください。

「TruCapture」が起動します。

ヘルプの起動方法

「TruCapture」の詳細は、ヘルプを確認してください。

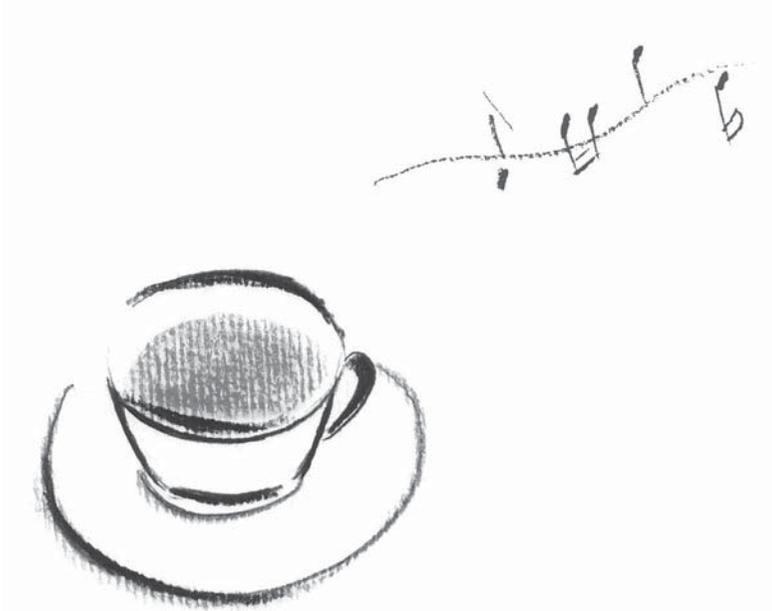
1 「TruCapture」を起動後、画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

2 「設定」をタップする

画面右側に「設定」画面が表示されます。

3 「ヘルプ」をタップする



7 章

■ システム環境を設定する

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

- 1 パスワードセキュリティ 106
- 2 起動ドライブの変更 108
- 3 BIOS セットアップを使う 109

1 パスワードセキュリティ

パスワードとは、Windowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。

このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人がWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードには次の種類があります。

● Windowsパスワード

Windowsの起動やスクリーンセーバーからの復帰のときに、パスワードを入力しないと起動しません。

使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。

メモ

- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、文字キーをタップして直接入力してください。

7章

システム環境を設定する

1 Windowsパスワード

「Windowsパスワード」は、Windowsを起動したりスクリーンセーバーから復帰したりするときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。Windowsセットアップを実行するときに設定します。

参照 Windowsセットアップについて『取扱説明書 1章 3 - 1 Windowsセットアップ』

すでに設定してあるWindowsパスワードを変更する場合は、次のように実行してください。

1 画面の右端から左に向かってスワイプする

チャームが表示されます。

参照 チャームの操作方法「1章 1 - 2 チャームの操作について」

2 [設定] をタップする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

3 [PC設定の変更] をタップする

[PC設定] 画面が表示されます。

4 [アカウント] → [サインイン オプション] → [パスワード] の [変更] ボタンをタップする

画面に従って、Windowsパスワードを変更してください。

2

起動ドライブの変更

ご購入時の設定では、本体の内蔵フラッシュメモリからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① 画面の右端から左に向かってスワイプしてチャームを表示する
- ② [設定] をタップする
- ③ [PC設定の変更] をタップする
- ④ [保守と管理] → [回復] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 音量大 (+) ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

[Boot Menu] 画面が表示されます。

3 起動したいドライブをタップする

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- 「HDD Recovery」は選択しないでください。「HDD Recovery」を実行すると、内蔵フラッシュメモリ内に保存されているデータはすべて消去されます。
間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので [No] ([NO]) をタップしてください。電源が切れるので、手順 **2** からやり直してください。

参照▶ 内蔵フラッシュメモリから本製品を初期状態に戻す方法について
『取扱説明書 2章 **6** 本製品を初期状態に戻す』

バイオス

BIOS セットアップとは、本製品のシステム構成をタブレット本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（本製品、周辺機器接続ポート）の設定
- 起動方法の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「電源オプション」、「デバイス マネージャー」などで行ってください。
電源オプションについては、スタート画面またはチャームの [検索] 欄に「電源オプション」と入力して検索してください。
デバイス マネージャーについては、スタート画面またはチャームの [検索] 欄に「デバイス マネージャー」と入力して検索してください。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、バッテリーパックが消耗した場合は標準設定値に戻ることがあります。

1 起動と終了／BIOS セットアップの操作

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 起動

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① 画面の右端から左に向かってスワイプしてチャームを表示する
- ② [設定] をタップする
- ③ [PC 設定の変更] をタップする
- ④ [保守と管理] → [回復] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PC の電源を切る] をタップする

2 音量大 (+) ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

[Boot Menu] 画面が表示されます。

3 [Enter Setup] をタップする

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、手順 **1** の終了操作を行って本製品の電源を切り、手順 **2** をやり直してください。

2 終了

1 [Save and Exit] をタップする

2 [Yes] をタップする

BIOS セットアップが終了します。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容は、一部の設定を除き無効になります。

設定値は変更前の状態のままです。

[System Time] と [System Date] の各設定については、変更前の状態に戻りません。

1 [Close] をタップする

画面にメッセージが表示されます。

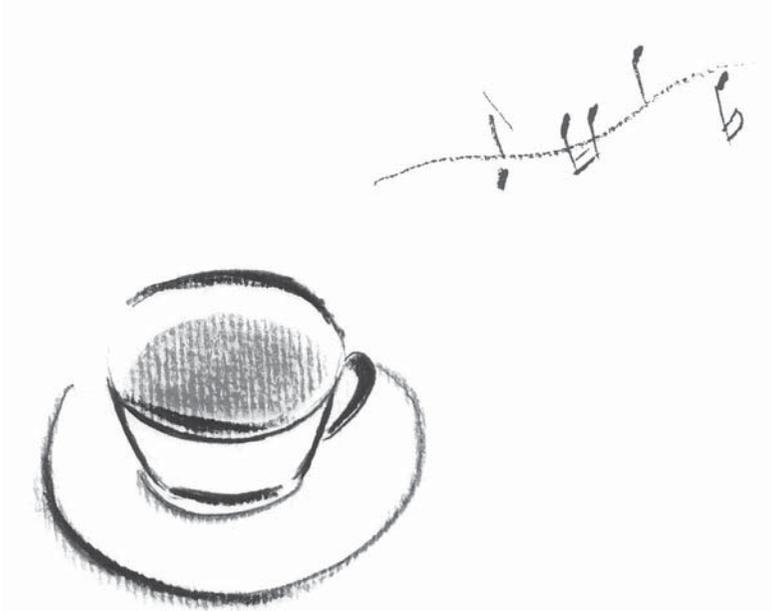
2 [Yes] をタップする

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

操作	画面のメニュー
設定内容を標準値にする	[Setup Defaults] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 一部の設定については、標準値に戻りません。
設定を保存し、BIOS セットアップを終了する	[Save and Exit] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。 保存しない場合は [No] をタップしてください。
設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了する	[Close] メッセージが表示されます。[Yes] をタップしてください。 [System Time] と [System Date] の各設定については、 変更前の状態に戻りません。



8 章

■ 本製品の動作がおかしいときは

本製品の操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

- 1 トラブルを解消するまでの流れ..... 114
- 2 「詳細オプション」で調べる 117
- 3 Q&A集..... 118

本製品のトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

本製品に起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのため、本製品の構造をある程度知っておくことが必要です。ここでは、本製品の構成とトラブル対処法を紹介します。

■ 本製品を構成する3つの部分



● アプリケーションソフトウェアとは

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● システム、ドライバーとは

システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、本製品を動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 8.1です。

ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

● ハードウェアとは

バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、内蔵フラッシュメモリ、CPUなどの、タブレット本体や接続する機器を指します。

本製品はこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（タブレット本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 『取扱説明書』や本書の「Q&A集」から探す

『取扱説明書』や本書の「Q&A集」では、トラブルが発生した場合の解決方法を説明しています。

参照▶「本章 3 Q&A集」

STEP2 「Q&A集」以外から探す

●『オンラインマニュアル』を検索してみる

トラブルの解決方法を「Q&A集」から探せないときは『オンラインマニュアル』をキーワード検索してみるのも一つの方法です。

●『オンラインマニュアル』の検索方法

デスクトップ画面で [オンラインマニュアル] アイコン () をダブルタップして起動します。メニューバーの [編集] → [簡易検索] または [高度な検索] をタップしてください。検索ウィンドウが表示されます。

STEP3 サポートのサイトで調べる

インターネットに接続している場合は、次のサポートサイトをご覧ください。

●「dynabook.com」 (<http://dynabook.com/>)

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」では、お問い合わせの多い質問や最新のQ&Aが掲載されています。

●「あなたのdynabook.com」

*「あなたのdynabook.com」対象モデルのみ

「dynabook.com」の「サポート情報」にある「あなたのdynabook.com」には、ご利用の製品の「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などが掲載されています。ご利用の製品に関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

サポートサイトの説明を読んでもトラブルが解決しない場合は、お問い合わせ専用フォームから質問メールを出すこともできます。

STEP4 それでもトラブルが解決しない場合は問い合わせる

- **本体のトラブルの場合**
東芝PCあんしんサポートにご連絡ください。
- **OSやアプリケーションのトラブルの場合**
本製品に用意されているOS、アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。
参照▶ OSやアプリケーションのお問い合わせ先「付録 **1** お問い合わせ先」
- **周辺機器のトラブルの場合**
各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。
参照▶ 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

「詳細オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。「システムの復元」機能もあります。

1 起動方法

* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、次の方法で電源を切る

- ① 画面の右端から左に向かってスワイプしてチャームを表示する
- ② [設定] をタップする
- ③ [PC設定の変更] をタップする
- ④ [保守と管理] → [回復] の [今すぐ再起動する] をタップする
- ⑤ [オプションの選択] 画面で [PCの電源を切る] をタップする

2 電源コードとACアダプターを接続する

3 音量大 (+) ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

[Boot Menu] 画面が表示されます。

4 [HDD Recovery] をタップする

確認のメッセージが表示されます。

5 「Yes」 (「YES」) または 「はい」 をタップする

[オプションの選択] 画面が表示されます。

6 [トラブルシューティング] をタップする

[トラブルシューティング] 画面が表示されます。

7 [詳細オプション] をタップする

[詳細オプション] 画面が表示されます。

8 使いたいメニュー名をタップする

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『取扱説明書』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『取扱説明書』も参照してください。

1	画面／表示	118
	Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった.....	118
	Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、 本製品をスリープや休止状態から復帰したとき、 本体ディスプレイに何も表示されない	119
	Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、 画面が表示されなくなった.....	119
	Q 画面が薄暗く、よく見えない.....	119
	Q 画面表示が回転してしまった.....	120
2	システム／内蔵フラッシュメモリ	121
	Q 内蔵時計が合っていない.....	121
	Q しばらく本製品を使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった.....	121
3	タッチパネル	121
	Q ダブルタップがうまくいかないの、速度を変更したい	121
	Q 電源を入れたあと、タッチパネルが反応しない.....	122
4	その他	122
	Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい	122

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらく操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っています。電源スイッチを短く押すと表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、 本製品をスリープや休止状態から復帰したとき、 本体ディスプレイに何も表示されない

* HDMI (micro) 出力端子搭載モデルのみ

A▶ テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。本製品の画面が表示されていた場合は、本体ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照▶ 詳細について「4章 **3** - **2** HDMIケーブルで接続時に表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、 画面が表示されなくなった

* HDMI (micro) 出力端子搭載モデルのみ

A▶ テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A▶ 本体ディスプレイ（画面）を明るくしてください。

次の手順で本体ディスプレイの輝度を調整することができます。^{*1}

- ① 画面の右端から左に向かってスワイプする
チャームが表示されます。
- ② [設定] をタップする
画面右側に [設定] 画面が表示されます。
- ③ [明るさ] または [ディスプレイ] をタップして、表示されたバーで輝度を調整する
画面の輝度を確認しながら、つまみを上下にドラッグして調整してください。

*1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A▶ 本体ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。*¹

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
- ③ [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をタップする
- ④ [プラン設定の変更] をタップする
- ⑤ [プランの明るさを調整] を設定する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
- ⑥ [変更の保存] ボタンをタップする

*¹ この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

Q 画面表示が回転してしまった**A**▶ 本製品を持ち上げて、表示したい方向に傾けて調節してください。

画面表示の向きは、ディスプレイの向きに合わせて自動的に回転する設定になっています。

画面表示が回転しないように設定することもできます。

参照▶ 「2章 5 - 2 画面の向きを設定する」

8
章**A**▶ 画面の設定が変更されている可能性があります。

次の手順で元に戻すことができます。

- ① スタート画面の [デスクトップ] をタップする
デスクトップ画面が表示されます。
- ② デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所で、長押しする
- ③ 表示されたメニューから [画面の解像度] をタップする
- ④ [向き] で表示したい方向を選択する
- ⑤ [OK] ボタンをタップする
- ⑥ [変更を維持する] ボタンをタップする

2 システム／内蔵フラッシュメモリ

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で【日付と時刻】画面で修正してください。

- ① デスクトップ画面で、通知領域の日付・時刻表示をタップする
カレンダーと時計が表示されます。
- ② 【日付と時刻の設定の変更】をタップする
【日付と時刻】画面が表示されます。
- ③ 【日付と時刻】タブで【日付と時刻の変更】ボタンをタップする
【日付と時刻の設定】画面が表示されます。
- ④ 【日付】で日付の修正を行う
該当する日付をタップしてください。
- ⑤ 【時刻】で時刻の修正を行う
デジタル時計は「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をタップし、右端にある上下のボタン () で時刻を修正してください。
- ⑥ [OK] ボタンをタップする
- ⑦ 【日付と時刻】画面で [OK] ボタンをタップする

Q しばらく本製品を使用しないでいたら、時計と日付が変更されてしまった

A バッテリーの充電量が不足しています。

電源コードとACアダプターを接続して、バッテリーを充電してください。その後に、日付と時刻を設定してください。

日付と時刻の設定方法は、「本項 - Q 内蔵時計が合っていない」を参照してください。

3 タッチパネル

Q ダブルタップがうまくいかないで、速度を変更したい

A 次の手順で、指でのダブルタップの速度を調節してください。

- ① スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- ② [Windows システムツール] の [コントロールパネル] をタップする
- ③ [ハードウェアとサウンド] → [タッチ入力設定の変更] をタップする
[ペンとタッチ] 画面が表示されます。
- ④ [タッチ] タブの [ダブルタップ] を選択し、[設定] ボタンをタップする
[ダブルタップの設定] 画面が表示されます。
- ⑤ [スピード] のスライダバーを左右にドラッグする
- ⑥ [OK] ボタンをタップする
- ⑦ [OK] ボタンをタップする

Q 電源を入れたあと、タッチパネルが反応しない

A→ タッチパネルに触れたまま電源を入れると、タッチパネルが一時的に反応しない場合があります。

タッチパネルに触れないで、しばらく待ってからお使いください。

4 その他

Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A→ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対する本製品の方向を変える
- 本製品をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記載しています。

1	お問い合わせ先 - OS/アプリケーション -	124
2	デイリーケアとアフターケア	128
3	お客様登録の手続き	135
4	捨てるとき/人に譲るとき	136
5	ご使用にあたってのお願い	138
6	記録メディアについて	144
7	メディア/内蔵フラッシュメモリへの書き出し	146
8	技術基準適合について	147
9	無線LAN/Bluetoothについて	150

1

お問い合わせ先

— OS / アプリケーション —

本製品に用意されているOS、アプリケーションのお問い合わせ先を紹介しています。
各アプリケーションを使っていて困ったときは、こちらに連絡してください。

* 2014年12月現在の内容です。

各社の事情で、受付時間などに変更になる場合があります。

1 OSのお問い合わせ先

Windows 8.1に関する一般的なお問い合わせ先は、東芝PCあんしんサポートになります。

Windows 8.1に関する一般的なサポート情報は、以下のホームページでもご確認いただくことができます。

<http://support.microsoft.com>

2 アプリケーションのお問い合わせ先

各アプリケーションのユーザー登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。

用意されているアプリケーションはご購入のモデルにより異なります。

Excel 2013/OneNote 2013/Outlook 2013/PowerPoint 2013/Word 2013/
楽しもうフォトウィザード

日本マイクロソフト株式会社 サポート受付窓口

●基本操作に関するお問い合わせ

<メール サポート>

以下の Web サイトにアクセスし、ご質問または問題に関連する製品を選択してください。

ホームページ : <http://support.microsoft.com/oas/>

受付時間 : 24 時間いつでも受け付けています。

<電話サポート>

フリーダイヤル : 0120-54-2244

※ 下記番号へのお問い合わせの場合は通信費はお客様負担

東京 03-4332-5458 大阪 06-6530-4231

※ ご利用の際は、電話番号をお間違えないようご注意ください。

※ 音声ガイダンスが流れますので、ガイダンスに従って番号のご選択をお願いいたします。

受付時間 : 月曜日～金曜日 : 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 19:00

土曜日 : 10:00 ~ 17:00

(祝日、日本マイクロソフト株式会社指定休業日を除きます。日本マイクロソフト株式会社指定休業日以外で日曜日が祝日である場合には、日曜日は上記土曜日と同様の受付を行い、翌日の振替休日が休業となります。)

● サポート有効期間 : お客様が初めてお問い合わせいただいた日から起算して 90 日間 (※)
※ サポート ライフサイクル期間内

● ホームページ : <http://support.microsoft.com/select/>

お問い合わせに関する詳細は、本体に同梱されている冊子『Office お使いになる前に』をご覧ください。

ウイルスバスター クラウド™ 90日版

ウイルスバスターサービスセンター

受付時間 : 9:30~17:30

TEL : 0570-008326

03-6738-6062 (IP 電話・光電話からのお問い合わせ)

E-mail : <http://tmqa.jp/r924/>

ホームページ : <http://tmqa.jp/toshiba/>

Corel VideoStudio**コーレル株式会社 インタービデオ テクニカルサポート**

お問い合わせの前にホームページ (<http://www.corel.jp/support/>) をご確認ください。
当製品の無償サポート期間は、ご購入後1年間となります。

受付時間 : 月～金 10:00～12:00、13:30～17:30

(12:00～13:30、土日祝祭日、ならびに指定休業日を除く)

TEL : 03-3544-8179

E-mail : メールでのお問い合わせは、以下のURLに掲載されている専用のメールフォームをご利用ください。

<http://www.corel.jp/support/>

ホームページ : <http://www.corel.jp/>

i-フィルター6.0 (90日版)**デジタルアーツ株式会社 サポートセンター**

受付時間 : 10:00～18:00

(デジタルアーツ指定休業日を除く)

TEL : 0570-00-1334

E-mail : p-support@daj.co.jp

ホームページ : 【よくある質問】 <http://www.daj.jp/cs/support/pc/if6/>

【お問い合わせフォーム】 <http://www.daj.jp/ask/>

筆ぐるめ for TOSHIBA**筆ぐるめ インフォメーションセンター**

受付時間 : 9:30～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝祭日・休業日を除く)

11月1日から12月30日までは無休

(受付時間9:30～17:00 12/30のみ12:00まで)

TEL : 0570-550-211 (ナビダイヤル)

03-5638-6139 (PHS、IP電話ご使用の場合)

E-mail : users@fsi.co.jp

ホームページ : <http://fudegurume.jp/>

その他のアプリケーション

※ 本製品を購入後に追加したアプリケーションに関しては、製造元各社へお問い合わせください。

東芝（東芝PCあんしんサポート）

[固定電話から] 0120-97-1048（フリーダイヤル：通話料・電話サポート料無料）

[携帯電話から] 0570-66-6773（ナビダイヤル：通話料お客様負担・電話サポート料無料）

おかけいただくと、ガイダンスが流れます。ガイダンスに従って操作してください。

技術的な質問、お問い合わせは、ガイダンスの後に **1** をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間：9:00～19:00（年中無休）

[電話番号はお間違えのないよう、ご確認のうえおかけください]

海外からのお電話や一部のIP電話などで、上記電話番号（フリーダイヤル、ナビダイヤル）をご利用になれない場合は、043-298-8780（通話料お客様負担）へおかけください。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、サポートサイト (http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm) にてお知らせいたします。

お客様の個人情報の取り扱い全般に関する当社の考えかたをご覧になりたいかたは、（株）東芝の個人情報保護方針のページ (http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm) をご覧ください。

1 日常の取り扱いとお手入れ

『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、日常の取り扱いとお手入れをするときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。

日常の取り扱いでは、次のことも守ってください。

本体および付属品について

- 『安心してお使いいただくために』の「安全上のご注意」、「ご使用上のお願い」に、本体、ACアダプター、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、指示を守ってください。
 - 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
 - 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
 - 可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。
 - 使用できる環境は次のとおりです。^{*1}
温度5～35℃、湿度20～80%
- *1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
 - 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
 - 落としたり、衝撃を与えないでください。
 - 分解しないでください。
 - 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカーなどの近く）／ほこりの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
 - 使用中に本体やACアダプターが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
 - ケーブル類は折り曲げたり、巻き付けたりしないでください。故障の原因となることがあります。
 - 電源プラグを長期間にわたってコンセントに接続したままにしていると、電源プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりをふき取ってください。

液晶ディスプレイ

□ 画面のお手入れ

- 液晶ディスプレイは指紋やほこりがつきやすいので、いつもきれいな状態でお使いください。
- 液晶ディスプレイの表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

□ 残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。

また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する
スクリーンセーバーの設定については、Windowsのヘルプをご確認ください。
- 「電源オプション」で「ディスプレイの電源を切る」を設定する

□ 表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

有機ELディスプレイ

□画面のお手入れ

- 有機ELディスプレイは指紋やほこりがつきやすいので、いつもきれいな状態でお使いください。
- 有機ELディスプレイの表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

□表示について

- 有機ELディスプレイは、同じ画像を長く表示したり、ディスプレイの照明設定を必要以上に明るくしたり、長時間使用したりすると部分的に明るさが落ちたり、色が変わる場合がありますが、有機ELディスプレイの特性によるもので故障ではありません。
- 有機ELディスプレイは非常に高度な技術で作られており、ごくわずかの画素欠けなどが存在することがあります。また見る方向によってすじ状の色むらや明るさのむら、色の変化が見える場合があります。これらは、有機ELディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。
あらかじめご了承ください。

2 アフターケアについて

修理サービスについて

修理サービスのご相談は、東芝PCあんしんサポートまたは保守サービスへお問い合わせください。

参照 ▶『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

修理や点検の際に、初期インストール作業（標準出荷状態）など、お客様が記憶装置内に記録されたデータやインストールされたソフトウェアは消去される場合があります。

必ず、定期的にはまたは修理や点検を依頼される前に、バックアップをとり、重要な内容は紙などに控えておいてください。

記録内容が変化・消失したことによる損失・損害などの請求につきましては、いっさいその責任を負いかねます。

有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）などの条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日に約8時間、1ヵ月で25日のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、24時間を超えるような長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換（有料）が必要となります。

□対象品名

本体液晶ディスプレイ*¹*²、有機ELディスプレイ*¹*²、ハードディスクユニット*²、ソリッドステートドライブ (SSD)*²、内蔵フラッシュメモリ*²、CD/DVD/ブルーレイディスクドライブ*²、キーボード*²、タッチパッド*²、マウス*³、冷却用ファン*²、ディスプレイ開閉部 (ヒンジ)*²*⁴、ACアダプター、プラグアタッチメント*³、電源コード

- * 1 工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。
- * 2 搭載されているモデルが対象です。
- * 3 付属しているモデルが対象です。
- * 4 ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

一般社団法人電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_FuLZW1JpDj.pdf

■消耗品について

□バッテリーパック

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。

充電機能が低下した場合の対処方法は、モデルによって異なります。

ご使用のモデルについては、『dynabook * * * *（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

■バッテリーパック搭載モデルの場合

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパックと交換してください。

参照 ▶ バッテリーパックの購入について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

参照 ▶ バッテリーパックの交換方法『取扱説明書』

■バッテリーパック内蔵モデルの場合

充電機能が低下した場合は、バッテリーパックの交換を依頼してください。バッテリーパックの交換は、保証期間内でも有料になります。

参照 ▶ バッテリーパックの交換の依頼について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

付属品について

付属品（ACアダプターなど）については、「東芝PC工房」でご購入いただけます。

□東芝PC工房（東京：秋葉原）

TEL : 03-3252-6274

営業時間 : 10:00～18:30

受付時間 : 10:00～12:00 13:00～18:30

休館日 : 毎週日曜日、祝日、当社指定の休日

URL : http://dynabook.com/assistpc/pckobo/index_j.htm

※ 型番がPZで始まるモデル、または2011年6月以降発売され、型番の12桁目（左から数えて）がZのモデルについては、「東芝海外PCリペアセンタ（http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/kaigai_repair.htm）」へご相談ください。

ハードウェアの保証とアフターサービスについて

□修理について

【無料修理（保証修理）】

各種説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きに記載された正常なご使用をされている場合であって、お買い上げ日から保証期間中に故障したときに、保証書に記載の「無料修理規定」に従い、ハードウェアの無料修理をいたします（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）。

【有料修理】

「保証書」に記載の保証期間が終了している場合、または、保証書に記載の「無料修理規定」の範囲外の作業（詳しくは、保証書に記載の「無料修理規定」をご覧ください）については、有料修理をいたします。

参照 ▶ 修理依頼『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

□部品について

【部品の交換について】

保守部品（補修用性能部品）は、機能・性能が同等な新品部品あるいは新品と同等に品質保証された部品（再利用部品）を使用し、故障した部品と交換します。なお、有料修理でユニット修理を適用した場合および無料修理の交換元（取りはずした）部品の所有権は、株式会社東芝または株式会社東芝の認める各保守会社に帰属します。

【保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間】

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヵ月です。

□最新情報について

東芝ホームページ「dynabook.com」では、常に最新のサポート情報を提供しています。定期的に最新情報をご確認ください。

サポート情報 : http://www.dynabook.com/assistpc/index_j.htm

3 無線LANやインターネットの使用に関するお願い

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です!)

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用して本製品などと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

・不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す(情報漏えい)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)

傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)

コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

セキュリティ機能

セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。不正アクセスを防ぐために、暗号化機能(WEP、WPA)を設定されることを強くおすすめします。また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windowsファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

青少年がおられる家庭の皆様へ～ 重要なお知らせとお願い

インターネットの発展によって、世界中の人と容易にメールのやりとりをしたり、個人や企業が開設しているインターネット上のサイトを活用したりすることによって、必要なときに必要とする情報を瞬時に検索することが可能となっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害情報という負の側面があります。特に青少年にとって、下記のようなインターネット上のサイトは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- 出会い系サイト
- 暴力残虐画像を集めたサイト
- 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- 犯罪を助長するようなサイト
- 毒物や麻薬情報を載せたサイト

アダルトサイトが青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開を止めさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開を止めさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信者の側で閲覧の制御を行う技術的手段で、100%万全ではありませんが、多くの有害な情報へのアクセスを自動的に制限することができる有効な手段です。特に青少年がおられるご家庭では、ご自宅のパソコンやタブレットにフィルタリング機能を持つソフトウェアを購入しインストールするか、インターネット事業者のフィルタリング・サービスの利用をご検討されることをおすすめします。

付録

「フィルタリング」は、ソフトウェアあるいはサービス事業者によって、「有害サイトブロック」「Webフィルタ」「インターネット利用管理」などと表現される場合もあり、それぞれ、機能、利用条件が異なります。ソフトウェア提供会社あるいは、お客様が契約されているインターネット事業者に、事前にご確認されることをおすすめします。

【参考資料】

- 一般社団法人電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料
「パソコンサポートとつきあう方法」
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=372&ca=14>

3

お客様登録の手続き

本製品やアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、本製品、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。



メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 スタート画面の【デスクトップ】をタップする

デスクトップ画面が表示されます。

2 [東芝お客様登録] アイコン () をダブルタップする

「Internet Explorer」が起動し、登録用のホームページが表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
登録用ホームページ： <http://toshibadirect.jp/room1048/>
商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

本製品を捨てたり人に譲ったりする前に、お客様登録を削除したり、内蔵フラッシュメモリの内容を消去してください。

参照 ▶ 『取扱説明書 2章 10 捨てるとき／人に譲るとき』

本製品の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンやタブレットは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンやタブレットに使われているハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリの記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、パソコンやタブレットを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆ データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆ 「削除」操作を行う
- ◆ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ◆ 添付のリカバリーDVD-ROM、または作成したリカバリーメディアを使い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリ上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリ内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリ内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有料）を利用するか、ハードディスクドライブの場合は金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることをおすすめします。

なお、ハードディスクドライブ、SSD、内蔵フラッシュメモリ上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンやタブレットを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する可能性があるため、十分な確認をする必要があります。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

1 本体について

本体の廃棄／リサイクルについては、『取扱説明書 2章 10 捨てるとき／人に譲るとき』、『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』をご覧ください。

2 バッテリーパックについて

バッテリーパックの廃棄／リサイクル方法は、モデルによって異なります。ご使用のモデルについては、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

■ バッテリーパック搭載モデルの場合

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリーパックは廃棄しないで、各自治体の条例または規制に従ってリサイクルするか、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。

その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。



Li-ion



Ni-MH

【バッテリーパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先】

一般社団法人 JBRC

TEL : 03-6403-5673

ホームページ : <http://www.jbrc.com>

■ バッテリーパック内蔵モデルの場合

本製品の廃棄時に、お客様ご自身でバッテリーパックの取りはずしはしないでください。本製品といっしょに廃棄をお願いします。

参照 ▶ 廃棄について『取扱説明書 2章 12 サービス&サポートのご案内』

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 本製品を使用する場所について

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、本製品にも最適な環境です。

次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
不安定な場所に置くと、本製品が落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やけがにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
磁石はもちろん、スピーカー、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなども本製品を使用するときははずすようにしましょう。
- 照明や日光があたる位置も考慮しましょう。
照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコンなども無線通信装置の一種です。

2 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

操作にあたって

- 「PC引越ナビ」のヘルプで、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコン（本製品）で、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

3 タッチ操作について

画面のタッチ操作にあたって

- 画面をタッチするときは、強く押さないでください。
- 画面上に物を置かないでください。
- 画面は指で操作してください。先のとがったものや硬いもの（つめ、鉛筆、ボールペンなど）で画面をタッチしたり押さえつけたりしないでください。画面を傷つけるおそれがあります。
- 画面に保護フィルムを貼った場合、タッチ操作が正しく認識されないことがあります。

4 内蔵フラッシュメモリについて

操作にあたって

- 内蔵フラッシュメモリにアクセス中は、電源を切ったり、本製品を動かしたりしないでください。内蔵フラッシュメモリが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- 内蔵フラッシュメモリに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にmicroSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、内蔵フラッシュメモリ、microSDメモリカードやUSBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- 本製品を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- 内蔵フラッシュメモリの空き容量が少なくなると、アプリケーションが起動しなかったり、正常に動作しないことがあります。その場合は、不要なアプリケーションやデータを削除するなどして、内蔵フラッシュメモリの空き容量を増やしてください。

5 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。
レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふきなどの柔らかい布でふいてください。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物で本製品を覆わないようにしてください。
また、無線LANアクセスポイントと本製品との間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、次の説明を確認してください。

参照 「本章 9 無線LAN／Bluetoothについて」

- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ず本製品の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ 本製品のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてから本製品に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、本製品を再起動してください。

□ USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、一部の映像を再生するアプリケーションなどが動作しなくなることがあります。
これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示を保証するものではありません。テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像を再生するアプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。アプリケーションによっては、起動中に表示装置を切り替えられない場合があります。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えしないでください。
 - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・ 通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにサインイン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。その場合は『テレビに付属の説明書』または『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

ヘッドセットやヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドセットやヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ 本製品の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドセットやヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証するものではありません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

8 バッテリーについて

バッテリーを使用するにあたって

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スリープが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーを充電してください。

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

一般社団法人 電子情報技術産業協会の「PC用バッテリー関連Q&A」について
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>

9 ワイヤレスディスプレイ機能の使用にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイとの接続を確認したものではありません。詳しくは東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。
- 周囲の電波状況によっては、テレビまたは外部ディスプレイとの接続に失敗したり、途中で接続が切れたりすることがあります。また、テレビまたは外部ディスプレイの映像が乱れることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイと正常に接続できない場合は、本製品とテレビまたは外部ディスプレイ双方を再起動してください。
- 本製品は、スリープ中でもテレビまたは外部ディスプレイとの接続が解除されません。バッテリーの消耗を防ぐため、本機能を使用しないときはテレビまたは外部ディスプレイとの接続を切断してください。

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

1 microSD メモリカードを使うにあたって

1 microSD メモリカードの操作にあたって

- microSD メモリカードにアクセス中は、電源を切ったり、microSD メモリカードを取り出したり、本製品を動かしたりしないでください。データやmicroSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、本製品の動作が不安定になったり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、microSD メモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- microSD メモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- microSD メモリカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、microSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- 本製品を持ち運ぶときは、必ずSD カードスロットからmicroSD メモリカードを取り出してください。SD カードスロットやmicroSD メモリカードが破損するおそれがあります。

2 microSD メモリカードを使う前に

- すべてのmicroSD メモリカードの動作を保証するものではありません。
- microSD メモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- microSD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

microSDメモ리카ードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、microSDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
Windows上（[PC] 画面）でmicroSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。
デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのmicroSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したmicroSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（microSDメモ리카ード、USBフラッシュメモリなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。

初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。

データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

記録メディアへの書き込み、本体の内蔵フラッシュメモリへの書き出しを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込み／書き出しに失敗するおそれがあります。また、本製品へのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込み／書き出しに失敗することがあります。

■書き込み／書き出しを行うにあたって

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを使用して本製品を電源コンセントに接続してご使用ください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、電源オフ／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。
- ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度の変更など、本製品の操作は行わないでください。
- microSDメモリカードのセット／取り出しや、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 ▶ 「2章 本製品の基本操作を覚えよう」

参照 ▶ 「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- 本製品から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
 - ・ スクリーンセーバー
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション など
 ソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。
- microSDメモリカード、USBフラッシュメモリ、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体の内蔵フラッシュメモリ以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体の内蔵フラッシュメモリに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体の内蔵フラッシュメモリに保存してから書き込みを行ってください。
- 本製品に衝撃や振動を与えないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

瞬時電圧低下について

この装置は、一般社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 ▶ 「8章 3 - 4 - Q 本製品の近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0) ports, HDMI out port and microphone/headphone combo jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

<http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

CE compliance

This product is labeled with the CE Mark in accordance with the applicable European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU, Radio Equipment and Telecommunications Terminal Directive 1999/5/EC, Ecodesign Directive and 2009/125/EC (ErP) and the related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

* 5GHzの無線LANについては、IEEE802.11a、IEEE802.11acのいずれかをサポートしているモデルのみ対象となります。

* Bluetooth機能については、Bluetooth機能搭載モデルのみ対象となります。

1 無線LANの規格

無線LAN（無線LANモジュール）には通信の通信速度や使用している周波数帯によって、複数の規格が存在します。

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11acのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。

本製品が対応している規格については、「本節 **7** 無線LANモジュールの確認」を確認してください。

本書では、搭載された無線LANの種類によって説明が異なる項目があります。

■無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	5GHz (5150-5350MHz、および5470-5725MHz)
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz (2400-2483MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g, IEEE802.11n, IEEE802.11ac	直交周波数分割多重方式 (OFDM方式)
	IEEE802.11b	直接拡散方式 (DSSS方式)

無線LANアクセスポイントや無線機器と通信を行うには、どちらも同じ規格に準拠している必要があります。

2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャンネルは、国/地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11acの場合）

	チャンネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャンネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。



- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13、Ch36、Ch40、Ch44、Ch48、Ch52、Ch56、Ch60、Ch64、Ch100、Ch104、Ch108、Ch112、Ch116、Ch120、Ch124、Ch128、Ch132、Ch136、Ch140で使用できます。

- 2.4GHz帯：2400-2483MHz (IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合)

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472

メモ

- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。
-

3 Bluetoothの仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.4.0
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK

4 使用上のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz~2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局および移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz~2,470.75MHzと重複しています。

この周波数では電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

5 無線特性

無線LANおよびBluetoothの無線特性は、製品を購入した国/地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国/地域の無線規制の対象になります。国/地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

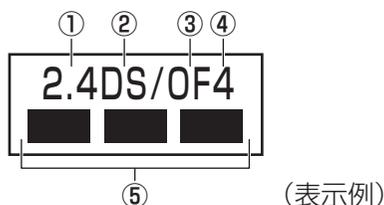
- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る「障害物」がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

6 現品表示、JEITAロゴ表記について

□ 無線LAN

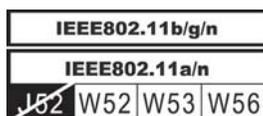
■ 現品表示

本製品または無線LANモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■ JEITAロゴ表記について

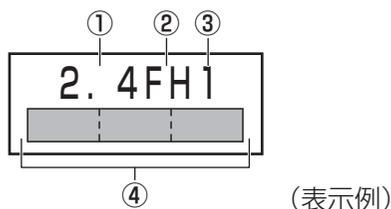


5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャンネルをサポートしています。

□ Bluetooth

■ 現品表示

本製品またはBluetoothモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- ③ 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- ④ ■■■■■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

7 無線LANモジュールの確認

本製品に搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

- 1 スタート画面で、画面の中央から上に向かってスライドする
- 2 [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をタップする
- 3 [ ハードウェアとサウンド] → [ デバイス マネージャー] をタップする
[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。
- 4 [ネットワーク アダプター] をダブルタップする
アダプター名が表示されます。
- 5 アダプター名を確認する
アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。
 - [Realtek RTL8723BS Wireless LAN 802.11n SDIO Network Adapter] の場合
IEEE802.11b、IEEE802.11g およびIEEE802.11n に対応したモジュールです。
また、Bluetooth機能も搭載しています。



メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。

8 機器認証表示について

本製品は、電波法および電気通信事業法の認証を受けた無線設備である場合と、認証を受けた無線設備を搭載している場合があります。

いずれの場合も本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の行為は電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

- 無線設備として認証を受けている場合：本製品を分解・改造して使用すること
- 認証を受けた無線設備を搭載している場合：
 - 組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用すること
(本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しているため)

9 お知らせ

無線製品の相互運用性

■無線LAN

本製品に搭載されている無線LANは、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs (Revision a/b/g/n/ac) (無線LAN標準規格 (版数 a/b/g/n/ac))

■Bluetooth

本製品に搭載されているBluetoothは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.4.0
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) Bluetooth Version 1.0B 仕様のBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性はありません。
- (2) 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetoothは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetoothの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと考えております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が無線LANおよびBluetoothの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で無線LANおよびBluetoothを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、無線通信機能をONにする前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

10 Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**■ Wireless LAN**

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

■ Bluetooth

The radiated output power of the Bluetooth Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/

● Taiwan

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

● Europe

■ Wireless LAN

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT. Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT. Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France. Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed. E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

11 使用できる国/地域について

海外で無線通信機能を使用する場合は、使用される国/地域の無線規格を取得している必要があります。

無線規格を取得している国/地域に関する情報は、「dynabook.com」をご覧ください。

また、無線規格を取得していない国/地域では、本製品の無線通信機能を OFF にしてください。

参照▶ 無線通信機能の OFF について「3章 **2** 無線 LAN を使う」